

# 濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of  
Social Welfare Organization  
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1129

「NEWSな濟生人」

赤ちゃんもお母さんも、  
誰一人取り残さない



7

July 2023

<https://www.saiseikai.or.jp>

社会福祉法人

恩賜財団

濟生会

# 濟生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂  
Shigeru Sumitani

178

## 部落差別の今

やはりたくさんの方の顔を見ながら話すと、元気になるものだ。聴衆の反応をうかがいながら、話題の展開や話すスピードを調整し、効果的に伝える工夫ができる。

新型コロナウイルスの移行後、大規模な集会が開催されるようになった。5月29日、東京都教育庁主催の都内公立小中高校や

特別支援学校の校長等に対して人権問題に関する講演を行なった。続いて6月7日は東京都、東京労働局共催の就職差別解消シンポジウムで講演を行なった。前者は約500人、後者は約1200人と大勢だった。

12年前、近畿圏の某町議会の議員の集まりで講演をしたところ、翌日、参加した議員から「こんな話をする人間は長生きしない」と感想をネットに書き込まれ、よい気持ちになれなかった。3年前に某福祉団体に寄せた原稿に「部落問題を研究している」と記載したところ、団体では「部落問題」という言葉は使えないので、修正を求められて唖然とした。この団体は、認識不足だけでなく、「部落問題」それ自体を避けているのではないだろうか。

濟生会の病院の中には、被差別部落の医療を確保するために設置されたところがある。昨年、民間運動団体の幹部に案内してもらい、ある地域を訪れたが、住民の人たちと話し合うと、数々の問題を抱えていた。隣接する濟生会病院が、解決に協力できることもあるのではと思った。病院長はこれに配慮し、今年から行動を始めてくれたことにうれしく思った。



濟生会は、創設以来、社会の底辺に暮らす人達への支援を行ってきた。しかし、地域を訪れると、対処すべき問題はむしろ増大していると実感するばかりだ。

濟生会は、創設以来、社会の底辺に暮らす人達への支援を行ってきた。しかし、地域を訪れると、対処すべき問題はむしろ増大していると実感するばかりだ。

夏が香る  
アイスティー。



よろこびがつながる世界へ  
KIRIN



午後の紅茶®  
Summer!



## 7月のたよりが聞こえる カワセミ

新型コロナウイルス禍前のこと。東京駒込の庭園・六義園で、奇妙な光景に出

くわした。カメラの放列が、園自慢の満開のしだれ桜ではなく、90度方向の違う池の鳥を向いている。レンズの先の松の枝にはカワセミ。ジツと下を行き来する鯉を追っている。ほぼスズメ大。英語名がキングフィッシャー（漁師王）とはいえ、ダイブして捕まえるには大きすぎる。逆に食われてしまうのではないか。そう思った瞬間、ビル群のほうに飛んで消えた。

溪流や湖沼が主な生息域で、時に都市部の公園などにも姿を見せる。高度経済成長期には川の汚れ、エサの減少、コンクリート護岸など環境の悪化で姿を消したが、水質改善とともに都心にも戻ってきた。特徴は何といっても羽根の色。ときに緑にも見える鮮やかな青。そして赤茶色の腹。漢字で書けば翡翠で、宝石の翡翠はこの鳥に由来する。

「ひかりは西へ」。この名コピーとともに1975年、山陽新幹線の岡山―博多

間が開業した。半分がトンネルで、モグラ新幹線とも呼ばれた。開業してすぐ、沿線の住民から苦情が寄せられた。新幹線が通るたびにトンネルからドーンと爆発音がする。当時の国鉄が調べた結果、「トンネル微気圧波」によるものと分かった。先頭車両が高速で入った瞬間、圧縮空気が音速で伝わり出口で一気に開放される、その時の衝撃音だった。

トンネル断面や軌道、車両の改良など次々と対策が取られた。中でも先頭車両の形状は、ダンゴ鼻と呼ばれた0系からシャークノーズ、変身もののマスクと空気抵抗を減らし続け、カワセミにヒントを得た500系が登場した。先頭車両の全長27メートルのうち、実に15メートルがくちばしだった。

現在はカモノハシ型の700系へと交代したが、魚めがけて水中に突入するカワセミのように、時速300キロでトンネルに飛び込んだ。そして、ビル群の中の駅に滑り込んで行ったのだった。

(Y)

### 表紙のことば

まだ見ぬ、あこがれの君へ

表紙イラスト 久保田真由美 *Mayumi Kubota*

渓谷が好きで、リフレッシュしたくなるによく行きます。見てみたくて、それでもまだ映像でしか見たことがないあこがれの鳥がカワセミです。漢字では「翡翠」と書きますが、ヒスイ石の方は「カワセミの

ように綺麗だね”ということでしょうか。光を受けて青緑に輝き、キラキラした水面を低く飛ぶカワセミは、目に入った瞬間、きっとどんな宝石も勝てないような美しさなのでしょう。

# 濟生

SAISEI

JULY, 2023

NEWSな濟生人 東京・港区第1号の産後ケアショートステイ「赤ちゃんもお母さんも、誰一人取り残さない」

院長 海老原全さん 看護師長 八島則子さん 事務次長代理 町田洋治さん

## 濟生会交差点

《視覚障害者の移動支援》視覚障害者をDXで支える。最先端技術「ナビレンス」って？  
 ／《都内で唯一。乳児院常勤の理学療法士》日々の遊びにもリハビリを取り入れ、チーム養育で子どもを支える／《不妊症看護認定看護師のしごと》「患者さんの不安」を拭きたい。患者に寄り添い、制度では補えない心のサポートを／《介護現場での業務改善の工夫》「心のゆとり」がつくる、信頼関係とよりよいサービス

巻頭コラム 濟生会の不易流行論 03  
 部落差別の今 理事長 炭谷 茂

7月のたよりが聞こえる——カワセミ 05  
 表紙のことば 久保田真由美

ソーシャルインクルージョン 19

この人 岸慎一郎 24

口福につぼん 吉井省一 26

だれでもかんたん てづくりおもちゃ 28  
 いまいみさ

TOPICS 30

載々、大雑報 70

題字協力：石飛博光

アートディレクション：  
 OVO INTERNATIONAL





入院中は助産師や看護師の細やかなサポートを受けることができる



安心して休むことができる部屋はホテルのよう

**佐藤** ケアの内容を改めて教えてください。  
**八島** お母さんには主に個々の状況に合わせて乳房ケアや健康状態を、赤ちゃんには発育状態、体重チェックなどを行います。また、授乳や栄養指導、育児相談も実施しています。  
**佐藤** 当院で出産した方に限らず受け入れられているのも特長的です。利用期間はどのくらいですか。  
**八島** 1泊2日から最長7日が基本です。

**佐藤** 産後ケアやショートステイの取り組みは他になかったのでしょうか。  
**町田** 乳児院や地域の子育てを支援する「子ども家庭支援センター」（児童家庭支援センター）の東京都における名称「が実施するショートステイは以前からありましたが、これらは子どものみを預かるサービスです。  
**佐藤** そこで港区では2020年4月に宿泊型ショートステイ事業を開始したので、よね。当院では母子が同室で過ごすことも

**佐藤** 港区が事業化したのは2020年ですが、その前に当院が独自に開始していましたよね。  
**町田** はい。6年前の2017年、新病棟が完成して、産科が分娩を再開したのと同じに、産後ケアを開始しました。当初は受け入れ体制、受付方法すら決まっておらず手さぐり状態で準備を進めてきました。産褥における手助けを念頭に置き、走りながら

**病院独自の事業として開始  
制度は後からついてきた**

**佐藤** 港区が事業化したのは2020年ですが、その前に当院が独自に開始していましたよね。  
**町田** はい。6年前の2017年、新病棟が完成して、産科が分娩を再開したのと同じに、産後ケアを開始しました。当初は受け入れ体制、受付方法すら決まっておらず手さぐり状態で準備を進めてきました。産褥における手助けを念頭に置き、走りながら

院内で子どもを預けておくことも可能です。問い合わせや予約はどのくらいありますか。  
**町田** 予約が増えてきていて、現在は1カ月〜1カ月半待ちの状態です。  
**佐藤** すこい。人気ですね。リピーターの方もいらっしゃる？  
**町田** 何回も利用したいという方もいますが、自宅での育児環境に慣れていただくために最長7日としています。7日を分割して利用することは可能です。  
**佐藤** なるほど。費用はどのくらいかかるのですか？  
**町田** 助成額が自治体によって異なりますが、港区では1泊6000円程度です。  
**佐藤** 港区以外にも受け付けていますか。  
**町田** 板橋区・中野区・渋谷区と業務委託契約しており、各自自治体に助成制度があるので、利用料金は自費より安く、ご利用者が多い状況です。それ以外の区在住の人は自費になりますが、ご利用は可能です。



**赤ちゃんもお母さんも、誰一人取り残さない**

〈東京〉中央病院

事務次長代理 **町田洋治** さん  
 看護師長 **八島則子** さん  
 院長 **海老原全** さん

**東京・港区第1号の産後ケアショートステイ**

中央病院は出産後の疲労や慣れない育児に悩む母親が子どもと一緒に短期入院してケアを受けられる「産後ケアショートステイ」を東京・港区で最初に取り組んだ病院です。ソーシャルインクルージョンを使命に掲げる済生会が行政とタッグを組む子育て支援策について、海老原全院長、八島則子看護師長、町田洋治事務次長代理に聞きました。  
 （中央病院 広報室長 佐藤弘恵）  
**佐藤** 産後ケアショートステイを始め、たきつけから教えてください。  
**海老原** 核家族が進み、周囲から子育ての支援を得ることができずに孤立してしまう母が増加しています。出産直後に疲れている状態で、育児に悩み、相談できずにいる母親に手を差し伸べたい——そんな思いから事業を立ち上げました。  
**佐藤** 「ワンオペ育児」の言葉が表すように、かつてのように親族や近所さんとのつながりに頼ることができなくなっていますよね。  
**海老原** 子どももお母さんも、誰一人取り残さない。ソーシャルインクルージョンの取り組みの一つとして、済生会がやるべき事業だと思っています。地域の中で、自治体と一緒に取り組んでいくことで「まちづくり」にもつながります。

出産の疲れを癒やし、  
育児の不安を解きほぐす  
行政と病院が取り組む子育て支援のかたち



赤ちゃんの話題を通して母親の心身の状態を感じ取ることも、スタッフの重要な役割



スタッフ同士が情報を共有し、産後のママと赤ちゃんの体と心をサポート

て、同時に小児科医等も介入することもあります。

産後ケアをきっかけに  
地域の支援につなげることも

佐藤 利用中に産後うつ等が分かることもあるのですか？

八島 助産師や看護師は利用者のふとした態度や言動などから「ちょっとおかしいぞ」と治療や地域の介入の必要性を察知します。それをきっかけに、産婦人科医からリエゾン看護師（精神看護専門看護師）に相談をする。そして、ケースワーカーとリエゾン看護師が連携して、退院後に心療科のクリニックを受診するようにお母さんの動機付けをしたケースが過去にはありました。

佐藤 病院にとどまらず、その先の必要な支援につなげることが重要ですね。

町田 自殺企図経験がある、睡眠剤を飲んでいての方が受け入れてもらえるか、とい

らのスタートでした。

佐藤 区の助成がつくようになったのはどのような経緯で？

町田 当時の産婦人科医長が産後ケアシヨートステイについて講演をしていたのを偶然、板橋区の保健師さんが聞いていて、区の事業として行なえないかという話になったのがきっかけで、自治体との契約第1号となりました。その後、当院から渋谷区等にも働きかけをして、自治体の業務委託契約を増やしていきま

した。

佐藤 一病院の取り組みとしてだけではなく、行政に働きかけて、制度化まで持っていけるのはさすがです。

町田 核家族化が進み、子育てに疲弊する家庭が多くなっていく中で、この自治体も子育て支援への意識は高いと感じました。

佐藤 当院の産後ケアシヨートステイのどういったところが人気の理由でしょうか。

八島 利用者の方々は、やはり育児

に対して不安が大きいこともあり、細かい質問を受けます。そうした質問一つひとつに、赤ちゃんの個性、さらにはお母さんの個性も踏まえて対応することが当院の助産師・看護師の強みだと感じています。

佐藤 利用者からはどのような質問が？

八島 母乳やミルクなど栄養に関することが多いですね。飲む量にムラがあるとか、体重の増加が少ないとか。わずか7日の産後ケアシヨートステイ利用時に赤ちゃんの体重計を持つてくる方もいます。ちよつとしたことで一喜一憂される方もいらっしゃいます。

佐藤 本当に不安を抱えているんでしょうね。

八島 そうだと思えます。助産師たちが「これぐらいミルクを飲んでいれば大丈夫」「ムラがあるのが普通だからね」と声をかけて丁寧に指導や助言を行なうと、安心していただけますね。それでも疑問が解消しなければ小児科医と相談することができます。

佐藤 細やかな対応が人気の秘訣ですね。利用の申し込みを受ける入口の段階でも、メール等での初期対応から予約受付そして利用するまでの「ケア」を丁寧に行っていると聞きました。

町田 2〜3通のメールでやり取りが終わる方もいれば、質問が多く15〜20通くらい

続く方もいます。後者は哺乳瓶用乳首のメーカーやアレルギー食の有無などのご質問が多くあります。その一つひとつに丁寧に

対応しながら、産後ケアのチームにも利用者の情報を事前に共有しています。

八島 問い合わせの内容をもとに、助産師と看護師でカンファレンスを行なって、訴えの多い利用者への対応方法を事前に話し合うようにしています。

町田 現場でしっかりと準備をしていただいているから安心です。

佐藤 受付時に気をつけていることはありますか。

町田 一人でも多くの方にご利用いただけるよう、問い合わせに対して早いレスポンスを心がけています。例えばメールを返すのが1日遅れると、相手は不安になって次の産後ケア施設を探すことになってしまいます。

佐藤 なるほど。利用の入口の段階で、すでに病院と利用者との信頼関係づくりが始まっているんですね。

町田 ある意味オーダーメイドでやっていますね。

佐藤 利用者の満足度が高いのもうなずけます。個室で部屋にシャワーもありホテル並みのサービスではないですか。

八島 実際、退院時に「チェックアウトしてください」と言ってくる人もいますよ(笑)。

シヨートステイの人気のなっているのかもしれない。

海老原 地域に貢献する事業を進めていくことは済生会創立の使命です。当院は高度急性期病院・三次救急指定医療機関として「高機能」であると同時に、「高ホスピタリティ」の病院でありたいと考えています。

佐藤 その上でさらに新しい病院のカたちを目指していくのですね。

海老原 はい。その通りです。病院内初出店のユニーク口のオープンや、スペイン生まれの移動支援システム「ナビレンス」(次ページ参照)の導入など、新しい病院のカたちとして、さまざまな取り組みも行なっています。今後も事業の範囲を限定せずに、広い観点から多くのことをやっていきたいと思っています。



インタビューの佐藤さん

【取材を終えて】

産後ケアは少子化や核家族化の中でさらにニーズが高まる事業だと考えています。入院中は助産師との関わりを通して、「困ったら誰かに相談できるんだ」という思いをたくさん経験していただき、退院後は地

域のサービスを上手に活用しながら子育てしていただきたいですね。子どもを社会全体で育てていくことが当たり前の世の中になるといいなと改めて感じたインタビューでした。(佐藤弘恵)

# 視覚障害者をDXで支える

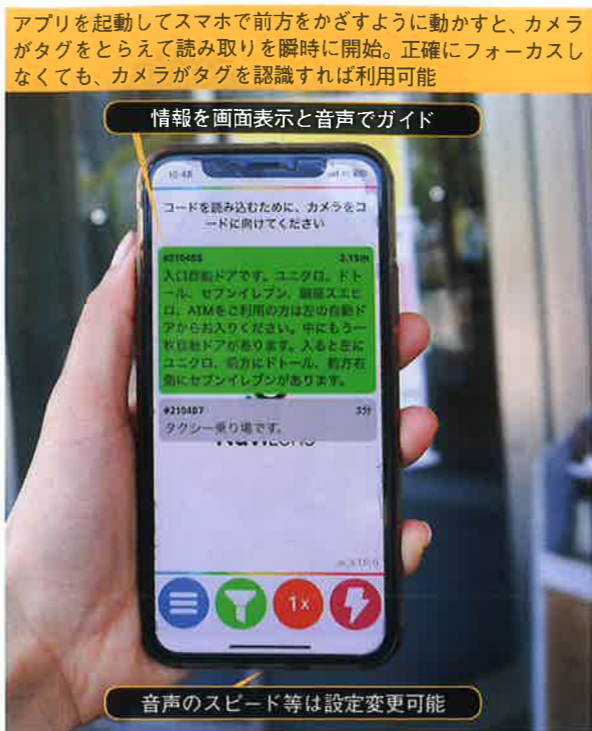
## 最先端技術「ナビレンス」って？

### 視覚障害者の移動支援

〈東京〉  
中央病院



アプリの読み取り感度はとても高く、入口看板のタグを15m手前の地点から読み取れたのにはびっくり!



アプリを起動してスマホで前方をかざすように動かすと、カメラがタグをとらえて読み取りを瞬時に開始。正確にフォーカスしなくても、カメラがタグを認識すれば利用可能

情報を画面表示と音声でガイド

音声のスピード等は設定変更可能

国内病院初導入、視覚障害者の移動支援アプリを〈東京〉中央病院で4月1日から運用開始しました。常に新しい病院の在り方を考え、患者のみならず地域全体に根付いた病院づくりをする中央病院取材しました。  
(メディアカル・リーフ 坂本陽子)

中央病院を訪れると、正面の玄関をはじめ、エレベーターやトイレの前など各所にカラフルなモザイク調の四角いマークが掲示されています。これらはいったい何でしょうか。

この不思議なマークの正体は、「タグ」と呼ばれています。同院で今年4月から導入した視覚障害者向けの移動支援システム「ナビレンス(Navilens)」の2次元コード。スマートフォン

で「タグ」をスキャンすると、その場所の説明や、距離・方向などの案内を画面に表示するとともに、音声で読み上げてくれます。実際にアプリを使用した様子やシステム導入までの経緯、これからの展開を紹介します。

### スマホをさっとかざすだけ

スペインで開発されたナビレンスは、海外では普及が徐々に進んでおり、バスや電車など公共交通機関の乗り場案内や時刻案内などにも使われています。現時点の日本では、ほとんど知られていません。同院でいち早く導入を決めたきっかけはあったのでしょうか。

事務次長代理の町田洋治さんは「目が見えない方に対する病院での支援方法を考えたときに、視覚障害を持つ同院かかりつけ患者さんからナビレンスのことを教えてもらいました。しかし、日本ではまだ導入事例がほとんど



(左より) 企画課の福田洋平係長、町田洋治事務次長代理、大島明代副主任、本多拓也課長。「ナビレンス体験コーナー」の設置などを企画中です

どなく、病院でどのような使い方ができるのか、なかなかイメージできなくて……」と昨年の導入検討当時の状況を振り返ります。

そんな折、文京区の文京シビックセンターでナビレンスの実証実験を行なっていることを知った町田さんは、実際に体験するため昨年12月、同院企画課のメンバー2人とともに見学。最寄りの地下鉄駅の改札を出て、センターへと向かうエスカレー



# 済生会 交差点

SAISEIKAI JUNCTION

済生会にはたくさんの道があります。道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。「笑顔」です。



ターの前に最初のタグがあり、実際にスマホのカメラをかざし

てみると、200メートル以上離れていても読み取ることができたとのこと。読み取った瞬間みんな「とて

もワクワクするね」「これは楽しい」「面白いね」と盛り上がりました。

ナビレンスの「タグ」は、QRコードのように至近距離で静止して読ませる必要はなく、遠くからでも、スマホをかざすだけで読み取ることが出来ます。センター内の区役所への誘導のために提供される情報もわかりやすいものでした。これなら、ナビレンスを導入したことを視覚障害者の方にあらかじめ伝えておけば、来院時に便利に使ってもらえるのではないかと。使用のイメージが少しずつ見えてきたことで、町田さんはナビレンスの日本代理店(株)メジヤメンツに連絡。タグの種類や掲示場所の検討など、契約に向けた準備を進めました。

まずは視覚障害者の方が一番



NavilensGO APP

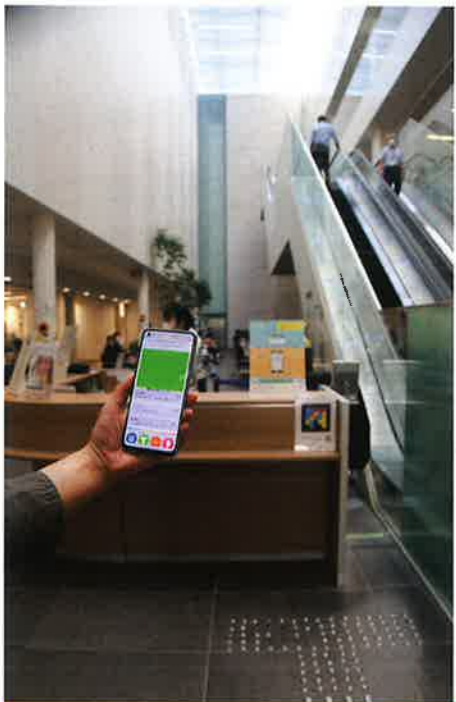
右上のオリジナルタグは、本誌掲載用の特別メッセージ仕様です。無料の「ナビレンス」アプリをダウンロードし、ぜひスキャンしてみてください!



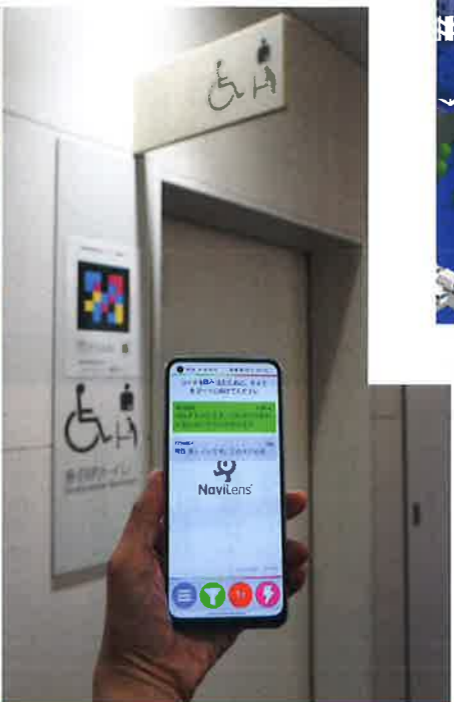
### ソーシャルインクルージョン ツールキット

ナビレンスの運用を開始して3カ月あまり。同院での使用状況はどうでしょうか。

町田さんは「読み取り回数履歴をみると、まだまだ少ない状況で、どのように広報をする



正面玄関から入り、総合案内のタグを読み取ると、右側エスカレーターから2階の眼科受付へと進むルートが案内される



目の見えない方が外出時に特に不安に感じるのが「トイレ」。男性トイレ・女性トイレ・マルチトイレそれぞれにタグを設定してご案内



病院併設の乳児院は都内には日本赤十字と当院しかなく、病児を積極的に受け入れている

者は34年勤めた中央病院から令和元年に乳児院に転属。都内で唯一、済生会の乳児院でも初めての常勤理学療法士として勤務し、今年で4年目となります。

**生活の中の小さな異変も見逃さない**

乳児院で特に感じたことは、「病児以外でもセラピストが関わるのがたくさんある」ということ。脳の障害や染色体異常、骨折などにとどまらず、胎児期での母親のアルコール過剰摂取や薬物依存等の環境不良、低栄養、出生時仮死などにより、病

名がつかなくとも発達遅滞や異常筋緊張、筋力低下などが生じている子どもに対して積極的にリハビリを行なっています。

乳児院に常勤の理学療法士がいることの最大のメリットは、子どもたちの異常を発見し、身体発達を促す支援や援助をすぐに行なえるということです。乳幼児期の子どもの脳は発達途上にあり、刺激により変化しやすい（可塑性が高い）ことから、早期に異常を発見し、できるだけ正常発達に近づけることが重要です。そのため、全入所児の身体機能・発達をチェックして、軽微な症状であっても介入しています。

当院では支援室会議、ユニツ



日常生活では、緊張が高く体が反り返ってしまう子どもに背当てやバスタオルを使って骨盤を安定させるといった工夫も

・・ちゃんのお願ひしたいリハビリ

Ns. 『大腿後面の筋ストレッチ』

ポイント  
・膝を伸ばすように押す。

NS. 保育士共通 『介助して立位』

ポイント  
・膝を伸ばすようにして押す。  
・両足を開くようにする。

どちらでも

日々の遊びや生活の動作の中で取り入れてほしいリハビリの仕方を看護師と保育士に共有するためのシート。リハビリが必要な子どもごとに筆者が作成

トカンファレンス、ナース会議、里親カンファレンス、自立支援計画会議などさまざまな会議を実施。これは、多職種が連携・協働して目標を決め、共通認識のもとでチーム養育を行なうためです。例えば、看護師や保育士と子どもたちの身体状況を共有し、日々の生活の中で、身体機能の改善を意識したりリハビリを取り入れています。筆者が休

**子どもの笑顔を励みに  
よりよい治療を模索**

ストレッチや関節運動などは少し痛いことをする場合もあるので、子どもにも訓練だと思われないように、遊びや運動の中で実施。周りの子どもたちから

都内で唯一  
乳児院常勤の  
理学療法士

〈東京〉  
中央病院附属乳児院  
技師長（理学療法士）  
新井保久

乳児院はさまざまな事情があり保護者との生活が困難な乳幼児を養育する施設です。当院は大正12年の関東大震災の震災孤児救護のために設立、まもなく100周年を迎えます。

日々の遊びにもリハビリを取り入れ  
チーム養育で子どもを支える

新生児から3歳までの子どもが入所、現在は定員35人、約90%の入所率があります。被虐待児や疾病・障害を持つ子どもも多く、病名がつかなくても「育てにくさ」や「成長発達の困難」を抱えているのが特徴です。一人ひとりの状態に応じた個別の療育が大切となるため、専門的な医療的ケアを担う理学療法士が必要とされてきました。

そうした経緯もあり、筆

を抱えているのが特徴です。一人ひとりの状態に応じた個別の療育が大切となるため、専門的な医療的ケアを担う理学療法士が必要とされてきました。

そうした経緯もあり、筆



東京都済生会中央病院附属乳児院



のが課題の一つです。視覚障害者に限らず、みなさんにとって便利な院内掲示の一つのツールとして定着できれば」と語ります。

ナビレンスの特長は汎用性の高さ。タグごとに設定する文字情報は、管理側でいつでも自由に変えられます。例えば「今日は休診」など、日によって変わる情報にも迅速に対応可能。そのほか、使用端末の設定言語に合わせて自動で翻訳したり、画面に手話や動画を流したりすることもできます。こうした機能を活用することで、障害の有無や種類にかかわらず、誰もが使えるツールとしての可能性が広がります。導入する施設が増え、

ナビレンスの存在がもっと知られるようになれば、設置も利用もより気軽にできるようになっていくでしょう。

町田さんは「全国の済生会の病院・施設でナビレンスの導入が広がっていけば、ソーシャルインクルージョンの一つのムーブメントにもなるのではないのでしょうか。公共性の高いトイレなどのタグは「バブリックタグ」として無料で提供されています。まずはそこから始めてみるのもよいと思います」と話しました。



ナビレンスの公式ウェブサイト

「視覚障害者の方をはじめ、誰にとっても役に立つツールの一つとして定着できれば」（町田さん）



ART（生殖補助医療部門）で働くスタッフ一同



不妊治療を受ける患者さんが採卵後に休憩する回復室

同院では週に1日、熟練した看護技術・知識の提供と看護の質の向上を目標に、認定看護師がそれぞれの分野に特化した活動をこなす「認定活動日」が定められています。患者さんの環境調整や、不妊治療に関する情報の啓発など、不妊症看護認定看護師として認定活動日に行なう業務の中でも、西潟さんが特に力を入れているのは「ART患者相談」。希望する患者さんから

不妊治療を受けるカップルへ必要な情報提供を行ない、自己決定をサポートする役割を担います。新潟病院の西潟さんもその一人です。県内では2人目の不妊症看護認定看護師として、当院産婦人科のART（生殖補助医療部門）に主に勤務しています。日々の業務では、体外受精のための注射や採卵・胚移植の準備から介助、採卵を行なう患者さ

んとそのパートナーへの看護。患者さんに応じた治療内容の説明などを行なっています。空いている時間には産婦人科病棟や外来へ応援に行くことも。また、不妊症看護を担当する助産師・看護師への教育にも携わります。「話せる場があったよかったです」

1時間程度、治療に関わる費用の相談や、治療のステップアップについての悩み、生活の変化への不安などを聞き、不妊治療を受ける患者さん一人ひとりが前向きになれるようにサポートします。相談後の患者さんからは「話せる場があったよかったです」「今まで溜めていた思いを

話せた」といった声があり、不妊治療と向き合うための活力につながる場となっているとのこと。そして、西潟さん自身もそうした声に励まされ、より心こもったサポートがしたいとの思いを強くしています。不妊治療では、結果が出ず長引く治療に精神的なストレスを



生殖補助医療の一つである「顕微授精」を行なっている胚培養士



採卵のための準備をしている胚培養士



胚の凍結作業を行なっている胚培養士



受精卵（胚）の凍結保存を行なう凍結タンク



胚培養器・顕微授精装置・再凍結タンクがある培養室

## 不妊症看護認定看護師のしごと

新潟病院

### 「患者さんの不安」を拭きたい 患者に寄り添い、制度では補えない心のサポートを

2022年4月から不妊治療が保険適用となり約1年。カップルの4・4組に1人が不妊治療を受けているという統計結

果もあります。不妊治療が進歩を遂げる一方で、全員が望み通りに子どもを授かることは難しく、治療の過程には、さまざまな不安や葛藤がつきまといまいます。新潟病

院で不妊症看護認定看護師として働く助産師の西潟あゆみさんに話を聞きました。（メディアカル・リープ 富谷咲希）



不妊症看護認定看護師の西潟あゆみさん



鯉のぼりの下でお庭遊びを楽しむ子どもたち。保育士を中心に院長・副院長・看護師長・理学療法士などが見守る

は「遊んでいる」と見えるようで、多くの子どもたちが笑顔で集まっています。もしかすると、「NHKの体操のお兄さん（おじさん）」が来たと思われているのかもしれない。そんな子どもたちの笑顔はとてもうれしいもので、順番に肩に乗せて遊ぶこともあります。それもリハビリの一環のつもりです。



支援室会議に参加する看護師や心理士に向けて、子ども一人ひとりの身体状況に応じた支援の仕方をアドバイスする筆者（写真中央）

コロナ禍では感染予防のため居室への出入りの回数が制限され、全員に毎日のリハビリを行

なうことができません。マスクのせいで表情が伝わりにくいこともありますが、目いっぱい笑顔と態度をもって、全力で子どもに接しています。乳児院の制度上、限られた入所期間の中で子どもたちにリハビリを行なっています。「もつといろいろな訓練ができなかったか」もつと時間をかけられなかったらどうか」などと考えることも多々ありますが、やっぱり子どもたちの笑顔が何よりうれしい！ その笑顔に励まされながら、何が正しい治療なのかを模索して日々のリハビリに取り組んでいます。



ユニットカンファレンスの様子。看護師、保育士、心理士、家庭支援・里親支援専門相談員、管理栄養士、理学療法士などが参加



よるこびがつなく世界へ

KIRIN

夏が香る  
アイスティー。

午後の紅茶  
Purpurea  
アイスティー

午後の紅茶  
Summer!

GOGO-TEA.jp  
キリンビバレッジ株式会社 のんだあとはいりサイクル。

Saisei  
[3号連続] 読者プレゼント

[7月号] 午後の紅茶ストレートティー500ml×24本を10名に

応募方法：メールで広報室 koho@saiseikai.or.jpへ 締切(7月号分)7月31日

- 提供：キリンビバレッジ株式会社 <https://kirinproducts.jp/softdrink/>
- 当選は発送をもってかえさせていただきます。応募者・当選者の個人情報は景品発送後速やかに破棄いたします。
- 氏名(フルネーム)・郵便番号・住所を必ず記載の上、ご応募ください。



「心のゆとり『10分間のごほうび』」で利用者と介護福祉士の深瀬利奈さんがトランプを楽しむ

利用者の笑顔を引き出すことがわかりました。利用者の笑顔を引き出すには、職員の心のゆとりが必要ではないか。こうして企画された、昨年8、9月に実施したのが「心のゆとり『10分間のごほうび』」と「お茶のみすっべ」です。

**利用者の笑顔を引き出す  
11の取り組み**

「心のゆとり『10分間のごほうび』」は、毎日1回10分間、介護職員全員が利用者と関わ

介護職員へ向けた業務についてのアンケート

施設内学会について  
先日のアンケートありがとうございました。結果としては、利用者との関わりが少ない、業務に不満がある等の意見が多く見受けられました。  
コロナ前までどの心は満たされていますか？行動制限があり、プライベートはもちろんだが心にも余裕がない状態ではないですか？仕事を休んでいる間だけでも、心のゆとりを持ってもらいたいと思いませんか？とゆう事で、今年は職員の間でアンケートを実施したいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

1. 皆さんはなぜ介護の職につきたいと思われましたか？  
\_\_\_\_\_

2. 仕事中で一番やりがいや楽しさを感じる事は何かですか？理由も合わせてお聞かせください。  
\_\_\_\_\_

3. 勤務中、心に余裕がある時間はありますか？当てはまる方に○をつけて下さい  
ある ・ ない

4. 仕事中にちょっとした空き時間があつたら、やりたい事はありますか？  
ある方はどんなことかもお聞かせください。  
\_\_\_\_\_

5. 4の質問であると回答した方は、それが今できているか、当てはまる方に○をつけて下さい  
できている ・ できていない、

6. 業務の中で改善できそうだと思う案はありますか？  
例えば、排せつケア時NC対応専門と排泄ケア専門に別れて行う、など  
\_\_\_\_\_

アンケートは以上になります。お忙しい中、ありがとうございました。  
提出は休館室にBOXを準備しますので、7月11日まで提出よろしくお願いします。

介護現場での  
業務改善の  
工夫

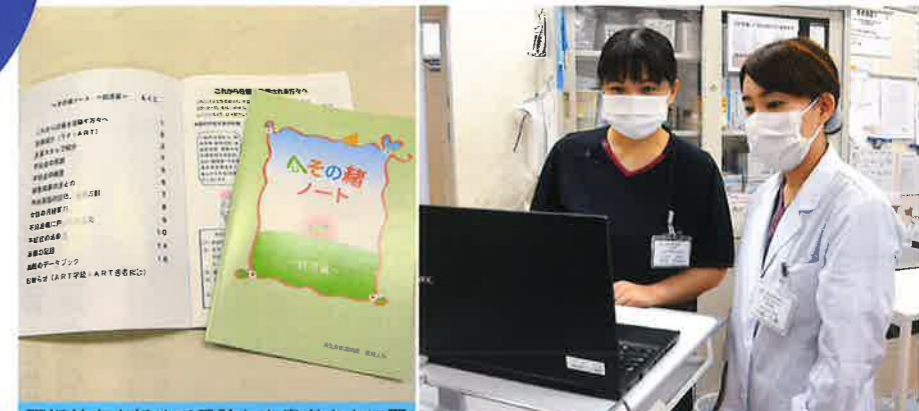
〈山形〉  
老健フローラさいせい  
支援相談員  
岩城伸幸

「心のゆとり」がひくると「信頼関係とよりよいサービス」

介護の基本は「コミュニケーション」。利用者と職員が遠慮なく話し合えることが大切

介護職員にアンケートしたところ、職員の多くが「人や高齢者が好き。もっと関わりたい」という一方で、心のゆとりがなく利用者によりよいサービスができていないと感じている

厚生労働省ホームページや他院の動向などを調べ、正確な情報をいち早くキャッチして患者さんやスタッフに情報提供することも、不妊症看護認定看護師の大事な業務。不妊治療への保



不妊外来を初めて受診した患者さんに医師から渡される「へその緒ノート」。治療内容や不妊の原因・検査結果が記入できる  
胚培養士の川崎万優さん(右)と西潟さん。ART(生殖補助医療部門)で患者の治療経過について話し合う

抱えてしまう方も多く、不妊症看護認定看護師として患者さんと顔を合わせる機会が多い西潟さんには精神面のサポートとしての役割も。「まずは患者さんの不安な気持ちに共感すること。ストレスが少しでも軽減されるよう、患者さんの様子をみながら声のかけ方を考えたり、話しやすい雰囲気づくりをしたりなど、柔軟できめ細かい対応を心がけています」と話していました。

**前向きな気持ちで  
治療を受けられるように**

険適用後の昨年当時と比べ、現在では患者さんが自身で調べて事前に準備してくることも多くなり、情報が周知されてきたと西潟さんは実感しています。しかし、年齢や治療内容によっては保険適用にならず、混合診療は原則認められていないことから、保険適用前と負担額がそれほど変わらない場合も多いとのこと。

「保険適用によりすべての患者さんの治療の機会や幅が広がり、不安が軽減されたりすることは難しいと思います。だからこそ、患者さん一人ひとりが治療に対して少しでも前向きな気持ちでいられるように、制度では補えない心のサポートをしていきたい」と西潟さんは話していました。

不妊治療のステップ

- ① タイミング法 排卵日を設定し、タイミングを合わせて性交渉を行なう
- ② 人工授精法 排卵日に合わせて精子を子宮の中に注入する
- ③ 体外受精 卵子と精子を取り出して培養液の中で受精した受精卵(胚)を、子宮の中に戻す
- ④ 顕微授精・胚移植 体外受精でも受精しない場合に、顕微鏡下で1個の精子を卵子に注入し受精を助ける

不妊治療のステップにおける「③体外受精」と「④顕微授精・胚移植」、また受精卵(胚)の凍結保存・融解胚移植などの技術を総称して「生殖補助医療(ART=assisted reproductive technology)」と呼んでいる

# インクルーシブ社会をつくるのは「地域力」

## 〈栃木〉宇都宮乳児院

4月8日に開かれた地域支援研究会で荻津守院長が「つながりサポート女性支援事業を基盤に重層的支援体制へ」をテーマに講演しました。「生活困難などで孤立している



人々への支援は地域のつながりが重要。支援する人も支援する。3次元的支援の展開が地域力の向上になる。そこで培われたネットワークや地域の支え合いが重層的支援体制の整備や地域共生社会の実現につながる」と力説し、40人ほどの参加者と意見交換しました。

参加者は「縦割りではなく地



## 社会福祉協議会へ備蓄食寄贈 こども食堂やフードバンクで活用

当院では、賞味期限が近づいた災害時用備蓄食の寄贈を令和3年から実施。6月13日は「さば味噌煮」「ハンバーグ煮込み」など800食ミネラルウォーター90本を奈良県社会福祉協議会に寄贈しました。

寄贈式では中山正一郎院長が奈良県社会福祉協議会の石井裕章常務理事に目録

## 〈奈良〉御所病院

域が一体となった本来の重層的支援体制が見えてきた「SOSを出せない人々が支援につながる

れていないことが課題」と話していました。

(済生記者 大久保彰子)

## ソーシャルインクルージョン

済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を策定しました。無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。だれも排除されないまちづくりを目指し、全支部・施設が1696事業を展開します。



「お茶のみすっべ」。あやとりやお手玉など、懐かしの昔遊びに夢中！利用者さんからあやとりなどの遊び方を教わる介護福祉士の萩原太輔さん

二つの取り組みを実施するにあたり、全体の業務を見直し、職員の負担軽減・効率化を図りました。さらに、日中の余暇活動を充実させ、なんとなく寝て過ごしがちな利用者の参加を促すことで、ナースコール対応の軽減につながりました。そのほか、見守りの機会が多い食堂にタブレット端末を配置することで利用者の状態を記録できるようになり、各種アプリを活用してレクリエーションの幅が広がったりと、試行錯誤しながら業務のやり方をアップ



初めてスライムを触り、「しゃっこくて気持ちいい」と笑顔を浮かべる利用者と介護福祉士の鈴木愛花さん ※方言で「冷たくて」の意味

今後も職員がやりたいことに挑戦できる環境をつくり、周囲からの応援を受けられる「面白そう」「やりがいのある」職場にしていきたいと考えています。

るもの。職員が一人減ってもフォローできるように、まずは10分から設定しました。利用者の希望を聞きながらお茶やおしゃべり、整容や美容、昔遊びを楽しませます。利用者との関わり、職員の気持ちにゆとりをつくることが目的です。

この時間は利用者との関わりに集中するためにPHSやインカムはなるべく使用しません。また、職員名と実施予定時間を記録した用紙を事前に共有し、担当する10分間に他の業務が回らないように周囲の職員が協力

します。実施後は誰とどのような遊びや関わり方をしたのかを記録し情報を共有します。「お茶のみすっべ」では、懐かしの昔遊びを職員と一緒にお茶を飲みながら楽しむことで、利用者の活力を生むことが目的です。利用者アンケートした結果を参考に職員が昔遊びのメニューを作成。その中から好きなものを一つ選んでもらい、毎日約30分、約14日間実施しました。日誌では、実施中の利用者の「笑顔」「意欲」「会話」について5段階で評価しました。



ネイルで指先もきれいになり、「30歳若くなったみたい」とポーズを決める利用者の二人

デートしました。

利用者も職員もモチベーションUP!

たった数十分の関わりでは利

用者との信頼関係が急激に進化したとはいえませんが、継続することで利用者も職員との溝が埋まっていくと感じています。利用者同士が「ほら見て！」と会話を弾ませたり、ネイルを施して表情を輝かせる様子を見て、職員もやりがいを感じ、モチベーションが向上。活動の習慣化で居室に籠りがちな利用者の活動量が増えたのもよい影響の一つです。これらの取り組みで、職員が心にゆとりを持つことの重要性やその効果が明らかになりました。現状では思い描いている姿と現実のギャップを感じる場面もありますが、多くの職員が業務改善の結果を実感しています。

## つながりサポート女性支援事業 協力団体連携会議に42施設

〈栃木〉宇都宮病院



6月3日、宇都宮市つながりサポート女性支援事業における関係団体の連携会議が、宇都宮市男女共同参画推進センターで開催。42施設・54人が参加しました。

当院地域連携課の稲見一美課

### 更生保護施設 入所者13人に無料健診

長(MSW)が当事業の昨年度の実績を報告。ウイメンズハウストちぎの丸山文子代表は来年4月に施行する「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」や女性支援・対応のポイントを講演。宇都宮大学男女共同参画推進室の川面充子特任教授は昨年度当事業で実施した生理に関するアンケートの結果を説明しました。

参加者は「他分野の方たちと顔の見える関係づくりができた」「会議で連携を深め新たなネットワークを構築したい」「つなサポを通して行政が推進する重層的支援の一翼を担いたい」と話していました。

(地域連携課 秋山綾香)

常にも「感謝を伝え、中山院長に感謝状を呈上しました。」

「今後も地域に根ざした活動を継続していきます。」

(事務部長 田中 隆)

当院は6月6日、更生保護施設入所中の生活困窮者を対象に今年度1回目の無料健診事業を実施。2カ所の施設から13人が来院しました。

更生保護施設は犯罪をした人または非行のある少年のうち身寄りがない人や引き受け先がない人、犯罪に陥りやすい環境にいる人などを受け入れていきます。住居と食事の提供、就労で得たお金で自立する指導、援助も来院手段

受診者の男性は「健康面の不安を持ちつつも、健診を受ける余裕もなく不安に思っていたところだった。今回健診を受ける機会を与えてもらい感謝している」と話していました。

(地域連携課 秋山綾香)



## イオンで健康フェア・相談会 新たに口腔ケアや介護相談も

〈愛媛〉西条病院



イオンモール協働事業の一環として、5月14日に「健康フェア・相談会」をイオンモール新居浜で開催。保健師の健康相談、管理栄養士の栄養相談、薬剤師の薬相談のほか、新たに歯科衛生士による口腔ケア相談、看護師によるBLS(一次救命処置)講習、介護支援専門員による介護相談のコーナーを設けました。

当日は母の日で、子ども連れの親子など55人が参加。「自分の健康に関心を持てた」「運動や食事の指導が参考になった」「口腔ケアを指導してもらい、セルフケアのやる気が出た」今日の結果を参考に健康に気を付けたい」など、多数の感想が寄せられました。

(社会福祉課 伊藤進一)



### SDGsをもっと身近に! アクションブックを刊行

福岡総合病院

当院がこれまで取り組んできた無料低額診療やなでしこプランなど「社会から誰一人取り残さない」ための活動をSDGsの17の目標とリンクさせたアクションブックを3月に刊行。

SDGsやソーシャルインクルージョンを身近に感じられるよう、当院のマスコットキャラクター「フクちゃん」を随所にあしらい、親しみやすいデザインにしました。

SDGsの取り組みは、生活困窮者支援が創立の原点である済生会の事業そのもの。冊子を通して決して他人ごとではないSDGsについて関心を高め、身近なところからできることを考える一助になればうれしいです。

(済生記者 富永朋美)



## イオン筑紫野で健康福祉フェア 薬剤師体験が子どもたちに好評



〈福岡〉二日市病院

当院はイオンモール筑紫野と「未来に向けた持続可能なまち

づくり協定」を締結しています。6月4日は3回目の「健康福祉フェア」を開催、17

2人が来場しました。今回は健康測定や健康相談に加え、前回子どもたちに好評だったお仕事体験を拡充。筑紫女学院大学の学生たちに運営スタッフのボランティアとして参加してもらいました。

オリジナルの薬袋を作り、処方箋通りにお薬に見立てたお菓子を処方棚から取ったり、分包機に入れたり、とても楽しそうでした。

BLS（二次救命措置）の講習会では、参加者から「心臓マッサージがためになった。またやってほしい」「AEDの使い方が分かった」などの意見がありました。

講演会では当院睡眠医療センターの安藤真

一センター長（循環器内科）が睡眠について講義。過去最高の

来場者数となりました。（済生記者 久富大史



〈栃木〉宇都宮病院



## 宇都宮東RCにつなサポをPR 生理用品の寄贈も

5月23日、宇都宮市内のイタヤホテルで行なわれた宇都宮東ロータリークラブで、当院の稲見一美地域連携課長（MSW）が宇都宮市つながりサポート女性支援事業を説明。趣旨に賛同いただき約50万円相当の生理用品を寄贈していただきました。今回の卓話では、済生会の成り立ちや当院がなしてこプラン

として地域に出向く活動をしてきたことが認められて事業の受託につながった経緯、「生理の貧困」の事例紹介、事業のビジョンや取り組みなどを説明しました。

ロータリークラブの加藤勝朗会長は「貴重な話を聞けてよかった。私たちも困難を抱える人たちに寄り添えるような活動

### 熊本病院

## 創立記念日に初の福祉イベント 済生会の歴史や福祉事業を紹介

5月30日、済生会の創立記念日にあわせて、イオンモール熊本で福祉イベントを開催。済生会とオンモールが締結した「未来に向けた持続可能なまちづくり協定」に基づき、院内で進めているアウトリーチ推進プロジェクト活動の一環で行なわれま

した。初開催となる今回は「福祉」をテーマに、医療ソーシャルワーカーによる福祉相談会と、リハビリテーション室スタッフによる福祉用具レクチャー&足の健康チェックを実施。34人が参加しました。

相談会ブースでは済生会の歴史、当院の社会福祉事業を紹介するパネルを展示。足を止めてパネルを見入る人も多く見受けられました。（済生記者 東賢剛）





# 岸 慎一郎

デビューのきっかけがインスタライブやTikTokの配信と聞くと、いかにもイマドキの若者のイメージ。しかし、その内面は「子どもと映画が好きでたまらない」熱いエネルギーであふれていました。これからの活躍が楽しみな俳優の、芸能界デビューをつかむまでのリアルストーリーを聞きました。

この人  
Vol. 158

## SNSで芸能界からスカウト!

### いつか子どもたちのヒーローに

Text: みやじまなおみ  
Photos: 安友康博

「もともと子どもに関わる仕事に就きたかった」と岸さん。きっかけは7年前の熊本地震。当時高校3年生だった岸さんは自らも被災するなか、避難所で子どもの面倒をみていたという。「大人たちは自宅や店舗の復旧に追われ、僕ともう一人が何十人もの小さい子の遊び相手をし

ていたんですが、ここにおもちゃや一つでもあればみんなをもっと笑顔にできるのに……という状況でした。それで将来は玩具メーカーに就職しようと思っていました」  
ところが就活は思うように進まず、もう一つの夢を叶えようと、ある行動をとる。「小さい頃



きし・しんいちろう 1998年生まれ、熊本県出身。大学在学中、自身のSNS(インスタライブやTikTokの配信)がきっかけで芸能事務所にスカウトされ、俳優、モデルとしてデビュー。主な出演作に舞台『逃走中 THE STAGE』、ドラマ『明日も好きでいて、いいですか?』シーズン2、『絶対BLになる世界VS絶対BLになりたくない男』シーズン2(すべて2022)、ドラマ『ホスト相続しちゃいました』(2023)ほか。特技はブレイクダンス。

から映画が大好きで、年間700〜800本映画を観ていました。自分が俳優になれば、子どもたちにもっと色々なメッセージを届けられるかもしれないと思っただけです。『だったら自分を露出しないと!』と半年間、SNSで動画を配信し続けた結果、卒業間際に今の事務所にスカウトされました。画面上では爽やかで面白いイメージ、でも内心は『今やり切らなきゃあとながない!』と必死でした(笑)」

昨年、出演した舞台『逃走中 THE STAGE』には子どものキャストが多く、「いきなり夢が一つ叶いました!」と屈託のない笑顔を見せた岸さん。目標とする俳優にジム・キャリーの名をあげる。「実は男前なのに変顔に躊躇がなく振る幅がすごい。子ども時代の僕のヒーローです。そんな役者を目指してがんばっていきます!」

Instagram 随時更新中! kishi\_shinichiro

# 口福につぼん

吉井省一



済生会の「病院・施設」がある  
県内の市町村

盛岡市民が愛する  
夏にぴったりの麺

盛岡冷麺は、盛岡の麵職人だった青木輝人氏が、昭和29年、朝鮮半島に伝わる咸興冷麺と平壤冷麺を融合させて創作したもの。

この二つの冷麺から、高麗キジのだし汁を牛スープに代えたり、そば粉の代わりに小麦粉を麺に練り込んだり、キムチを合わせたりするなど試行錯誤。コシの強さを生かしながらのど越しの良さや見た目の美しさを考慮し仕上げたこだわりの冷麺です。

## 70 盛岡冷麺

《びよんぴよん舎》

岩手県盛岡市

岩手県といえば、我が敬愛する石川啄木や宮沢賢治などの文豪を生み出した……いや、今やあの超一流メジャーリーガー大谷翔平選手の出身地として注目を集めている場所。

県庁所在地である盛岡は、啄木が短歌に詠んだ盛岡城跡公園や名歌の舞台にもなった北上川が流れる、落ち着いた風情ある街です。私も友人が三代続く菓子屋を営んでいたため、何度か足を運んだことがあります。

盛岡を訪れたらぜひ食べていただきたいのが、わんこそば・盛岡冷麺・盛岡じゃじゃ麺のいわゆる「盛岡三大麺」。文化庁が定めた、地域で世代を超えて受け継がれてきた食文化「10



宮廷料理の製法から、日本人の嗜好に合わせた独自の味付けまで。60年余りの創意が生かされた品々

初めのうちは、コシの強い麺に食べ慣れていなかった地元客からは、ゴムみたいで噛み切れないと不評だったそう。しかししばらくすると、コシの強さとど越しのよさがクセになると、徐々に人気が高まってきました。



盛岡市は、岩手山(写真)、早池峰山などに囲まれた北上盆地の中央に位置し、北上川や多くの湧水など、水の豊かさも魅力

ることで濃厚かつあっさりした味わいに仕上がっています。味のアクセントになるのが、キャベツと大根を使った専用のキムチ。これらがそれぞれの個性を放ちながら、盛岡冷麺の豊かな味わいを醸し出しているのです。

### 麺とスープとキムチの三位一体の旨みを堪能

お取り寄せできる「スペシャルセット」には、生麺・スープ・キムチ・酢・ごまに、牛味付肉・きゅうりの甘酢漬け・ゆで卵が付いており、本場の味をそのまま家で楽しむことができます。麺を4分半ほど茹でて、水水で冷やし、酢とスープでつゆをつくり、具を盛り付けたらできあがり。麺を軽くひねって盛り



【びよんぴよん舎からのアドバイス】麺の食感を引き立たせるため①なるべく大きな鍋で②よく沸騰したお湯で、茹で上げてください

付けるコツも同封されていますので、本場感はより高まります。お店では、ここに夏ならスイカ、冬なら梨がトッピングされます。果肉の甘さでキムチの辛さが和らぎ、冷麺の味が引き立

つので、本場にならってお好みの果物を入れてどうぞ。それでは、いただいでまいりましょう。まずは透明感がある自慢の麺をツルリ。噛むと押し返してくるようなコシの強さ。

表面が滑らかなので、のど越しのよさがとても心地よい。シコシコした歯応えもあります。麺によくからむのが、コクがあるのにあっさりした味わいの牛骨ベースのスープ。主張し過ぎないのに、強い存在感があります。このスープは、丁寧に濾して動物性脂肪を除去しているので、最後の一滴までぜひ飲み干してほしいとお店の方からのアドバイス。

味付けた牛肉はやわらかくて旨みがたっぷり染みんでいます。キャベツと大根を使った本格仕立てのキムチも、爽やかな酸味と程よい辛さが絶妙で麺によく合います。お店では、このキムチの辛さも別辛・中辛・特辛・激辛から細かく選べるとのこと。

我が家では、わかめやたこをオリジナルでトッピングして、さらにゴージャスに楽しめました。こだわりのスープをしつかり飲み干して、ごちそうさま。麺とスープとキムチが三位一体となっている「盛岡冷麺」。みちのくの小京都に旨いものあり、の逸品でした。



盛岡冷麺スペシャル 4食ギフトセット  
[麺150g×2、スープ160g×2、キムチ40g×2、殻付ゆで卵50g×1、甘酢きゅうり30g×1、牛味付肉20g×1、酢5g×2、ごま1g×2] ×2箱  
3,456円(税込・送料別) 賞味期限……製造日より冷蔵10日

お取り寄せ・お問い合わせは  
びよんぴよん舎  
〒020-0142 岩手県盛岡市稲荷町12-5  
TEL: 0120-47-0473 (受付時間: 9:00 ~ 17:00)  
FAX: 019-691-7522 (受付時間: 24時間)  
ホームページ: <http://www.pyonpyonsya.com>



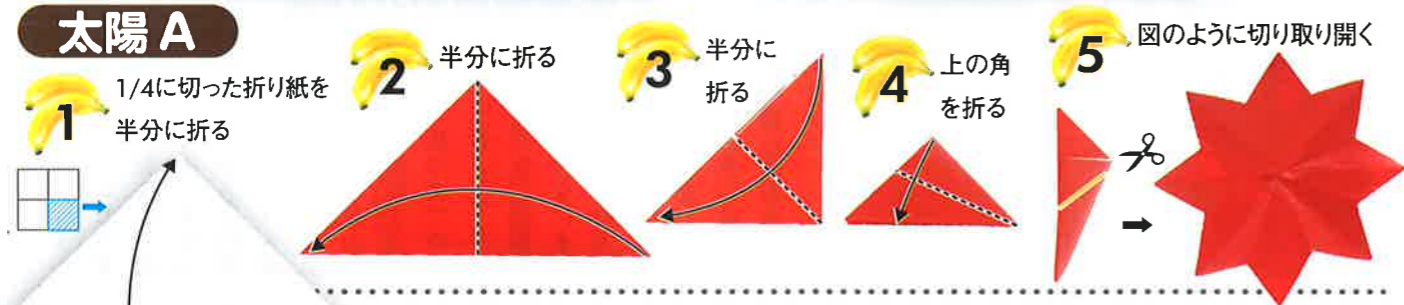
稲荷町本店の店内。岩手県内を中心に首都圏を含め計10ある店舗で、盛岡の味が堪能できる

# にっこり太陽とカラフル船の海の旅



--- 山折り  
 ..... 谷折り  
 ↺ 裏返す

## 太陽 A



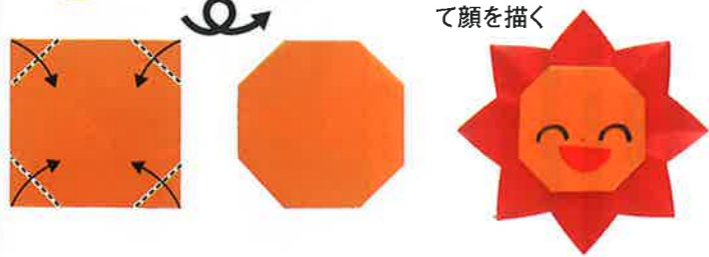
## 太陽・完成

太陽Bを太陽Aに貼って顔を描く

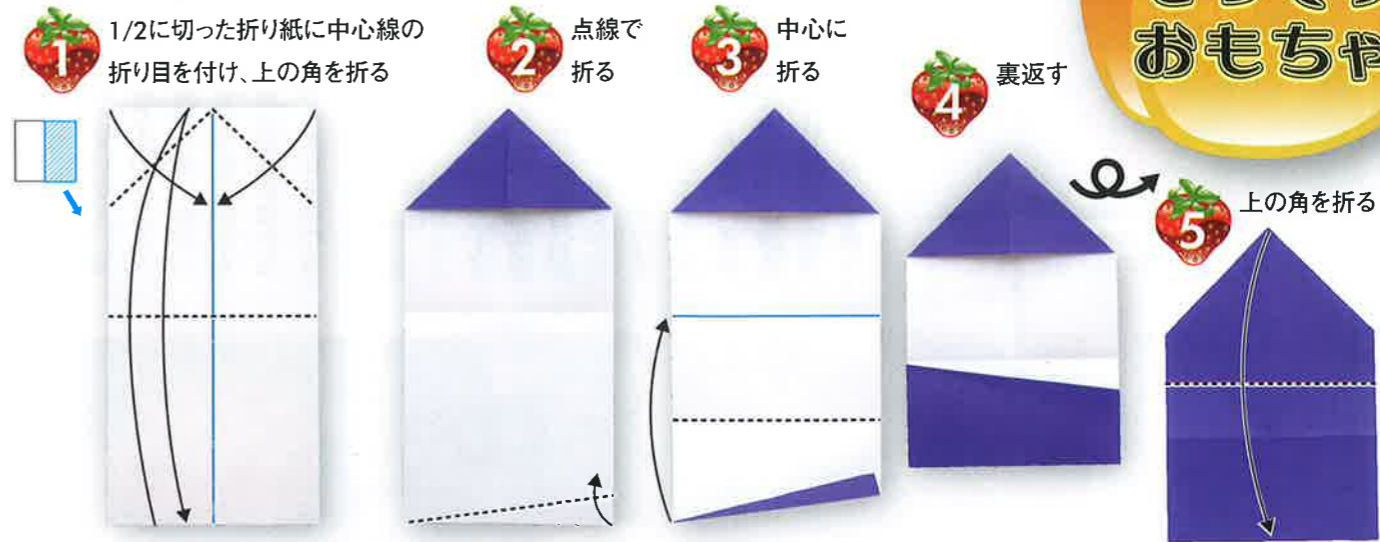
## 太陽 B

1 1/8に切った折り紙を半分に折る

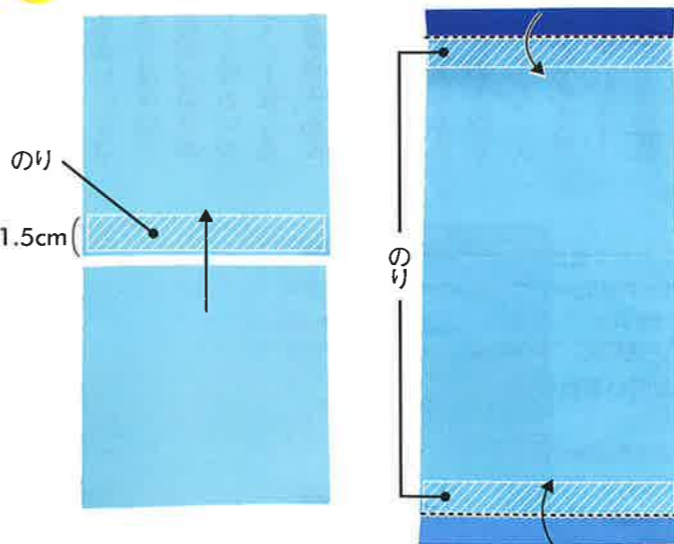
2 角を折って裏返す



## 船



## 台紙



## 完成

台紙に船と太陽を貼る



カモメや波も飾ってみてね！

だれでもかんたん  
 てづくり  
 おもちや



【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日たのしい折り紙」（日東書院）、「12か月のおりがみ壁飾り」（講談社）など38冊。2011年から、小学校2年の教科書「こくご」（三省堂版）にも登場。



動画もcheck!

作品・折り図：いまいみさ  
 おりがみ協力：株式会社トーヨー



日本代表の一員として世界の強豪チームに立ち向かう(東京)中央病院職員の記事を紹介しします。

# topics

## スペシャルオリンピックス 出場職員の壮行式

(東京)中央病院

「スペシャルオリンピックスワールドゲームズベルリン2023」のバスケットボール競技に出場する長山直看護助手(写真中央)の壮行式を6月9日、院長室で行ないました。この大会は、知的障害のあるアスリートが日々のスポーツトレーニングとその成果の発表の場として開かれるもので、世界最大級のインクルーシブなスポーツの祭典です。

壮行式には杉村栄一支部長、海老原全院長、本部からは炭谷茂理事長も出席、力強い激励の言葉をいただき、最後に全員で記念撮影を行いました。  
女子バスケットボールチームは、前回2019大会で銅メダルを獲得。職員一同、今大会での活躍も期待しています。

(済生記者 鈴木香純)  
★世界大会に2大会連続で出場するだけでもすごいですが、今

回もメダルを期待しています。  
(本部広報室 河内淳史)

## 〈愛媛〉小田診療所 全職員で取り組む消防訓練

消防訓練を5月18日、実施しました。当診療所では火災時に一人何役もの対応が必要なため、昨年度から「火元特定」「通報」



「初期消火」を全職員が確実にできるよう、ペアで取り組む訓練に切り替えました。  
今回は看護師と看護助手が担当し、その後、消火班が屋内消火栓で鎮火させる流れとしました。初めてで緊張したようですが、

が、無事に役目を果たしました。一方、消火班の男性職員は、現役の消防団員。放水姿勢はさすがに板についていました。

最後に、全職員を対象に普段は行かない部署も見学。火災時にあわてず素早い状況把握ができるよう、室内の構造や設置機器等を確認しました。

(済生記者 福岡博実)

## 創立記念日に 函館塩ラーメン

(神奈川)若草病院

当院では毎月、イベント食として趣向を凝らした職員用昼食を用意しています。過去には、



富山ブラックラーメンやケーキバイキングなどが人気を呼びました。

今年の創立記念日のイベント食は、函館あじさい監修の「函館塩ラーメン」。チャーシューに車麩、半分に切ったため卵海鮮の出汁を感じる透명한スープは背脂がトッピングしてあり、すっきりしたうまみを感じます。

限られた予算の範囲で職員に喜ばれるものをつくらうとしてくれる厨房スタッフに感謝です。職員には「具がいつもよりも豪華」「塩ラーメンに背脂は斬新」と好評でした。

(済生記者 長澤伸哉)

三重 明和病院

## ウクライナ傷病者に 看護の思いを伝える

当院では、ウクライナから来日した傷病者3人に対し、診察・義手作成・週2回のリハビリテーションを4月下旬から実施しています。5月12日の看護の日には、寄り添う気持ちを少しでも伝えたいと、ウクライナ語のメッセージカードを手づくりしました。

翻訳機を介して看護の日を説



明し、私たちの思いを伝えながら1人ずつに手渡すと、3人ともこやかにカードを受け取り、日本語で「ありがとう」と返してくれました。私たちもうれしい気持ちになりました。

(外来看護師長 浅尾瑠美)

(神奈川)横浜市

六浦地域ケアプラザ

## 地域のおまつりに ミニカーゲームを出店

当施設は6月4日の「第14回六浦西地区フレンドまつり」に、障がい児・者余暇支援「あったかスペース」としてミニカーゲームを出店しました。



小学生用と幼児用の2コースあり、スタートからゴールまでミニカーを走らせてゴールインした先には、かわいい・かっこいい景品が待っています。  
余暇支援に通う障がい者のKくんは、にこにこしながら景品を渡す係を引き受けてくれました。地域の子どもたちとの交流が、Kくんにとって特別な思い出となり、今後の生活に意味のあるものになるとうれしいですね。

(済生記者 山田和恵)



〔岩手〕岩泉病院

看護職に興味のある地元の中高生を対象とした「ふれあい看護体験」(右手県看護師協会開催)が5月24日・31日に実施、5人の参加がありました。  
DVD鑑賞、患者体験としてのバイタルサイン測定、手浴・足浴、車いす体験・ベッド臥床体験、褥瘡予防体験、また、実際に車椅子を押しながら患者さ



んと散歩しお話をしました。参加者からは「患者さんとのコミュニケーションを通し、目をそらえることで患者さんも心を開き、自分も楽しく会話できることが感じられた」などの前向きな感想がありました。  
看護師は「若い人との関わりで初心に返ることができた。終始和やかな雰囲気体験してくれてよかった」と話していました。  
(済生記者 中嶋亮三)

〔鳥取〕境港総合病院

5月10日・16日、病床の特性と退院支援の研修会を開催。医師、看護師、ソーシャルワーカー、セラピストなど49人が参加しました。  
講義では診療報酬等の基本情報も織り交ぜながら進み、「患者さんが住み慣れた暮らしの場に戻っていただくことが、私たち医療者が目指すこと」「効率的な病床選択は患者のみならず医療者にとっても重要」「施設基準や要件をクリアしなければ収益にはつながらない」などの内容に、参加者はメモをとり熱心に耳を傾けていました。



参加者からは「病床の特性が理解できた」「日常の業務について、なぜそれを行なうのか理解できた」などの感想が寄せられました。  
(済生記者 亀尾美子)

全国初のがん就労支援7月で10周年に!!

福井県済生会病院

「がん患者さんの就労支援」の取り組みを開始し、今年7月で10周年を迎えます。  
開始当初は、離職したがん患者さんから再就職の相談があっても法令説明やハローワークへの誘導にとどまり、患者さんの自助に任せざるを得ませんでした。  
その状況を打開するため、社会保険労務士の穴田隆英氏(現人事室顧問)の尽力でハローワークとの連携を図り、患者さんが希望する事業所に就職するための支援体制を整えました。  
当時、がんセンター以外の一



雨災害を想定しています。市民から市役所災害対策本部への被災通報で訓練がスタート。消防署から当院DMATへ出動要請があり、被災者20人弱のうち11人を当院に搬送しました。  
院内で一時、災害対策本部と現場統括指揮所の連携に苦慮する場面もあり、訓練終了後に済生会本部の危機管理専門員(DMATインストラクター)と振り返りを実施しました。  
これにより、災害対策本部の立ち上げに必要なHelp-SCREAM(助けてと叫ぶ)の重要性を再確認。数日後、改めて関係者で集まり、マニュアルの見直しを行いました。  
(医事課 末竹清治)

熊本福祉センター  
障がいのある人の支援を地域で考える

熊本市障がい者相談支援センター(さいせい)は、熊本市から委託を受けて、相談支援業務や地域支援業務に取り組んでいます。地域支援業務は、地域のさまざまな団体や機関と連携を深めて潜在的ニーズを掘り起こし、支援を必要とする障がいのある人々を見出すアウトリーチで支援につなげています。  
今年には民生委員・児童委員協議会からの依頼により、当センターの圏域・熊本市区内の9校区民生児童委員連絡会の「地

熊本福祉センター

域の障がいのある人の支援」勉強会で講話をしています。  
障がいについて理解を深めてもらうことで、地域の障がいのある人がより住みやすい地域づくりにつなげていきます。  
(熊本市障がい者相談支援センター さいせい相談員 田尻梨香)

〔大分〕日田病院

Help-SCREAM(助けてと叫ぶ)の重要性を再確認

6月4日に日田市主催の合同防災訓練に、災害拠点病院の当院から約50人の職員が参加しました。  
訓練は平成29年の九州北部豪



雨災害を想定しています。市民から市役所災害対策本部への被災通報で訓練がスタート。消防署から当院DMATへ出動要請があり、被災者20人弱のうち11人を当院に搬送しました。  
院内で一時、災害対策本部と現場統括指揮所の連携に苦慮する場面もあり、訓練終了後に済生会本部の危機管理専門員(DMATインストラクター)と振り返りを実施しました。  
これにより、災害対策本部の立ち上げに必要なHelp-SCREAM(助けてと叫ぶ)の重要性を再確認。数日後、改めて関係者で集まり、マニュアルの見直しを行いました。  
(医事課 末竹清治)



就労支援立ち上げメンバーと現担当メンバー

〔兵庫〕特養ふじの里  
ユスラウメが初めて実をつけた

一昨年植えたユスラウメに初めて実がなり、6月1日に収穫しました。

お椀二つ分取れたユスラウメの実。味はツヤと透感のある赤色で、味にも期待がっかり、食べた職員は「うすいサクランボの味」「野性味あふれています



ね」との声が。子どもの頃、直接木から食べていたという村田久美事務長からは「懐かしい味がする」との感想がありました。収穫のイメージは秋ですが、

ふじの里では初夏と冬が盛り。ユスラウメ、ピワ、姫リンゴ、イチジク、レモン、ユズ、ミカン等を植えています。ピワの実も昨年より大きく育っており、これからの収穫が楽しみです。

（管理部署事務課 事務リーダー 猪瀬麻美）

〔鳥取〕境港総合病院  
介護予防体操教室スタート

境港市が実施する介護予防筋力向上トレーニング事業の4コースのうち、「体操コース」を当院が今年度から担当すること



となりました。市民の健康寿命延伸が目的で、5月から9月まで週1回ずつ計20回行なう計画です。

初回教室は5月12日、当院会議室で開催し、18人が参加。腰痛予防の股関節をほぐすストレッチや筋膜ひねりなど、理学療法士のアドバイスのもと熱心に取り組んでいました。途中、参加者から「熱くなった」と声があがるなど、名実ともに熱気に満ちた教室となりました。

（済生記者 亀尾美子）

京都済生会病院

530運動で清掃活動

5月25日、長岡京市の環境美化活動である530（ごみゼロ）運動に参加し、病院周辺を清掃しました。ごみ拾いを通じてごみを捨てない心を育むことが目的です。

当日は総務課施設部門を中心に職員11人が参加。火ばさみとごみ袋を手に、敷地内外周部や歩道橋、駐車場、近くの公園などを回りました。一見何もないように見える隅や草むらの中も見逃さず、ベットボトルやたばこの吸い殻、食べ物の包装紙な



どを拾い集めました。

今後もソーシャルインクルージョン推進計画にある地域の美化活動として、きれいで過ごしやすいまちづくりに貢献します。

（済生記者 白須優也）

〔広島〕特養たかね荘こやうら  
2年ぶりに海が見える喫茶

新型コロナウイルスが落ち着いてきたので5月23日、2年ぶりに「屋上喫茶」を開催。地元の洋菓子店でロールケーキとプリンを購入し、利用者さん全員に提供し



ました。

天気はとてもよかったですのですが、帽子が飛ばすほど風が強く、利用者さんたちも大笑い。それでも海を見ながら屋上で食べるロールケーキは格別。すぐに食べ終わる人もいれば、ゆっくり味わっている人も、普段食べられないおやつに大満足の様子で、「おいしいね」「海がきれい！」と利用者さんは笑顔全開。職員にとっても格好の気分転換となりました。

（介護職員 松嶋奈々美）

〔大阪〕中津医療福祉センター  
つながる医療をテーマにセンター学会

「第38回中津医療福祉センター学会」が6月3日、学会長の当院・濱中浩孝事務部長の陣頭指揮のもと開催されました。

テーマは「つながる医療」さらなる前進への「一歩」。センターの各施設の仕事や取り組みを共有するよい機会です。

最優秀演題は人事室人事課・田部佑哉さんの「コロナ禍における採用活動の変容に対する取り組み」看護学生から選ばれる病院へ」でした。



特別講演は昨年サイバー攻撃で大きな被害を受けた大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センターの森田孝医療情報室長が「ランサムウェアによる電子カルテシステム障害」を解説しました。

（済生記者 鈴木亜希乃）

〔山形〕特養愛日荘

年度はじめの防災訓練

新規採用職員・異動職員7人に対する年度はじめの防災訓練を5月10日に実施しました。

阿部久管理権限者（施設長）が防災や訓練の重要性を説明、大泉克仁防火管理者（管理課長）



と日本防災工業職員による講話と設備の解説があり、受講者はメモを取りながら熱心に聞いていました。

最後は水消火器と補助散水栓を用いての実技です。「火事だー！」と周りの人に火災を知らせる火事ぶれをし、炎に見立てた三角コーンに水を浴びせて消火体験を行いました。

思いのほか補助散水栓の水圧が強く、腕力不足で狙いが定まらない受講者もいました。女性の多い職場ということもあり、適切な使用方法を学び安全に使用することの大切さを実感しました。

（済生記者 高橋 睦）

# topics



## 春の親子遠足は 笑顔がいっぱい

5月12日は待ちに待った親子遠足の日。2〜5歳の子どもたちとその保護者108人で大型バスに乗り、奥卯辰山健民公

利用者さんの望んでいることを見直していきたい」「さまざまに取り組みと発想に感銘を受けました」などあり、静岡で何ができるかを考えるよい機会となりました。

(済生記者 酒井あい)

## 〈石川〉こども園アイリス

園に出かけました。

目の前に広がる大自然に興奮の子どもたち。みんなで体操をしたり、クラスごとに親子でゲームをしたり、緑の芝生の上でたくさん体を動かしたりしました。

自由時間には親子で散策し、木の枝集めや虫探し。おしゃべりを楽しむお母さんたち、「お父さんと勝負！」と張り切る子どもにも手加減なしのお父さん。大人も子どもも笑顔がたくさん。帰りのバスはとても静かで、大きい寝息、小さい寝息を聞きながら、よい遠足だったな、と思う筆者でした。

(済生記者 小寺 唯)

## 岡山済生会ライフケア センター

### 新入職員が消火訓練

新入職員9人を中心に6月6日、初期消火対応の消火訓練を行いました。

的にめがけての消火器の噴射は、長いホースからの放水の勢いに、思わず声が出るスタッフも。見ただけではわからない、水の重さを感じていました。消火器と消火用散水栓がどこにあ

## 熊本の保育園からの見学者

〈愛媛〉松山乳児保育園

5月26日、当園と同じように水・砂・土など自然素材での遊びや造形活動を取り組む熊本の保育園から、園長先生を含む4人が見学に来られました。

でも開放感があります。その自慢のホールでは「すごい！室内なのに外にいるみたい」「空が見える。風も感じられて気持ちいい」と感激の声。その後、2歳児クラスの子どもたちが長い紙に絵の具を使って自由に描く様子や、園庭での遊び、食事などを子どもたちと交歓しながら楽しく見学されました。

(済生記者 別府絵里)

## 小樽のまちづくりに学ぶ

小樽病院・和田卓郎病院長と北海道支部・櫛引久丸常務理事の特別講演が6月9日、当院講

静岡済生会総合病院



堂で開催され、約90人が聴講しました。

和田病院長は「小樽病院が取り組むソーシャルインクルージョンの街づくりウエルネスタウン構想」と題し、済生会ピレッジでの取り組みや過疎地への支援について解説。櫛引常務理事は「北海道済生会のソーシャルイノベーション戦略」と題し、マーケティング方法や新しいアイデアをどのように生み出すかについて講演しました。



るのかも確認、器具の使用方法を学びました。

参加者の上長は「スタッフの安全を大前提に、得た知識を最大限に生かして、もしものときには活動してほしい」と話していました。

(総務課 濱家裕美)

## 中学生2人が職場体験

6月8、9日の2日間、「外科医を目指している」「母が中津医療福祉センターで働いている」という2人の中学2年生が

〈大阪〉中津病院



当院で職場体験を行いました。内視鏡模擬手術操作の体験ではオペ着に着替え、段ボール箱に小さな穴を開けた物を人体に見立て、内視鏡カメラとアームを操作してティッシュを摘出したり、血管に見立てたチューブを挟んだり、2人で協力しながら実演しました。

オペ前に行なう手洗いやガウンの着用、薬剤部、リハビリ、カテーテル検査の見学、看護師の制服を着ての病棟看護師体験など、さまざまな部署を回りました。

近藤真理子看護部長は「将来一緒に働けるとよいですね」とエールを贈りました。

(済生記者 鈴木亜希乃)

近隣医療機関が  
院内デイケアを見学

〔広島〕 呉病院

認知症サポートチームを中心  
に実施する「院内デイケア」を  
5月24日、近隣の医療機関が見  
学に来ました。理学療法士が指  
導する体操を行ない、その後、  
作品を製作。見学者も利用者さ  
んと一緒に参加しました。

終了後は、当院の認定看護師  
に、院内デイケアを始めるまで  
の過程や準備などについて熱心  
に質問。「思っていた以上に本  
格的に取り組んでいて、とても  
勉強になった」「当院でもリハ  
ビリの待ち時間に退屈している  
患者さんがおり、このような行



ケアマネの役割を  
知ってもらうために

〔山形〕 特養ながま荘

事は患者さん同士の交流にもな  
り、とても参考になった」との  
感想をいただきました。

〔済生記者 植田 茜〕

居宅介護支援事業所のケアマ  
ネジャーの役割が簡単に分かる



利用者向けのリーフレットを作  
成しました。

これまで利用者さんやご家族  
からは、ケアマネジャーの業務  
以外の頼みごと、例えばガスコ  
ンを買ってきて、トイレを修  
理してほしいなどの要求をされ

る一方、重要な連絡がないケ  
ースなどが多々ありました。そ  
れは事業所からケアマネジャー  
の仕事伝える機会が十分でな  
く、利用者さんや家族がその役  
割を理解できていなかったため  
と思われます。

リーフレット作成には、でき  
る限り簡単にケアマネジャーの  
役割が分かるよう、文言、レイ  
アウト、イラストなど細部にこ  
だわりました。

〔済生記者 高見友郁〕

新任看護師・看護補助者を対  
象に3回に分けて「おむつ研修」  
を実施し、約70人が参加しまし  
た。

〔大阪〕 中津病院

コロナによる面会禁止では、  
家族の負担軽減も考え、令和3  
年3月から「入院おむつセッ  
ト」を導入。院内統一のおむつ  
を患者さんのADL・体型・  
排泄状況に合わせて適切に使用し、  
QOL向上とともに看護師の  
業務負担軽減も図っています。

導入前はメーカーのアドバイ  
ザの指導のもと、寝ている患  
者さん、椅子に座っている患者

城北菖蒲園へ散策に

〔大阪〕 野江特養城東園

6月初旬の4日間、花菖蒲の  
群生で知られる近隣の城北菖蒲  
園へ入居者さんと散策に出かけ  
ました。

103歳の利用者さんをは



さんの2パターンで装着練習を  
行ないました。

「互いに不具合を指摘し合うこ  
とで、患者さんの気持ちを理解  
できた」との声も聞かれ、おむ  
つ研修への関心と期待値は年々  
高まっています。

〔済生記者 鈴木亜希乃〕



はじめとする入居者さんたちは、  
久しぶりの外気浴に道中の車内  
から気分が高揚、おしゃべりが  
止まりませんでした。

施設に戻ってからも「よかつ  
た!」「きれいやった!」「また  
連れて行って!」とうれしそう  
に話していました。

入居者さんに少しでも季節を  
感じてもらい、喜んでいただけ  
たことは、我々職員にとつてこ  
の上ない喜びです。他の行事も  
楽しく開催できるように計画し  
ようと思いました。

〔係長・相談員 中西茂人〕

救急救命  
県を越えた連絡会

〔鳥取〕 境港総合病院

当院は鳥取県の西部、島根県  
との県境に位置していることか  
ら鳥取・島根両県の消防本部、  
救急隊との顔の見える連携強化  
に努めています。6月2日には  
鳥取県西部消防局、島根県松江  
市消防本部、当院による「救急  
救命活動に関する連絡会」を開  
催しました。当院から医師や看  
護師など15人、松江市消防本部  
から2人、鳥取県西部消防局か  
ら8人の計25人が参加しました。



連絡会では、松江市北消防署  
および境港消防署の担当者によ  
る救急活動状況の発表、質疑応  
答、意見交換などが行なわれま  
した。今後も県をまたいで各関  
係機関と協力し地域医療を守つ  
ていきます。

〔済生記者 亀尾美子〕

済生会肝臓共同研究  
グループ

Webで今年度初の報告会

全国済生会肝臓共同研究グ  
ループ(SLSG)の今年度初  
めての活動報告会が5月12日、  
Webで開かれました。



今回は11月に神戸市で開催予  
定。消化器疾患や肝臓疾患を専  
門とする方々の参加をお待ちし  
ています。

〔岡山済生会総合病院  
内科主任医長 川上万里〕

グループに加盟する26病院の  
うち12病院から19人が参加。22  
年度の活動実績として第26回日  
本肝臓学会大会、第63回日本先  
天代謝異常学会学術集会、第  
109回日本消化器病学会総  
会での発表が報告されました。  
次いで現在進行中のC型慢性  
肝炎・代償性肝硬変や肝細胞癌  
LAL欠損症、急性肝炎、非  
アルコール性脂肪性肝疾患の研  
究の報告と検討が行なわれまし  
た。

ソフト、近畿ブロック大会へ

〈三重〉松阪総合病院

第10回三重県済生会ソフトボール大会が5月13日、松阪市の桂瀬ソフトボール場で開かれ、当院と明和病院で激闘を繰り広げました。実力は拮抗し、どちらが勝ってもおかしくありません。乱打戦となり、当院が9対6で打ち勝って近畿ブロック大会への進出を決めました。次は明和病院の分まで頑張り、全国大会出場を目指します。  
(済生記者 田端雄輔)



コロナ禍を乗り越え  
病院機能評価を受審

〈北海道〉小樽病院

機構側から受審延期を告げられていた「病院機能評価」を、5月22・23日の両日、ようやく



受審することができました。本来は2021年6月2日までに受審しなければなりませんでしたが、新型コロナウイルスへの体制の整備や院内クラスターの発生などで受審延期を繰り返してきました。今回の受審日が決まった後、「二度あることは三度

ある」と細心の注意を払いました。受審中はサーベイヤーのみなさんから厳しいご意見やアドバイスをいただきましたが、最後の講評ではたくさんのお褒めの言葉もいただきました。結果は2カ月後に届く予定です。  
(済生記者 松尾覚志)

〈山形〉特養ながまち荘

12人の防災協力員に委嘱状

令和5年度の「ながまち荘自主防災協力員委嘱状交付式」を5月19日、安全避難棟会議室で行ないました。自主防災協力員は、当荘の災害の予防とともに入居者の安全を確保し、物的被害を最小限度に抑えることが目的で、毎年、町内会の推薦を得て10人程度選出されます。今年度は、町内会



から推薦された12人の協力員に委嘱状が交付されました。今後、防災計画で予定している総合防災訓練や通報訓練に参加してもらい、当荘と地域の相互協力体制を構築していきます。  
(主任生活相談員 安井 健)

CF達成 緩和ケアガーデンを改造へ

〈福岡〉飯塚嘉穂病院

緩和ケアガーデンのリニューアルを目的としたクラウドファンディングを3月22日から5月31日まで実施、約400人から1000万円の目標をクリアすることができました。業に全職員が励まされました。11月3日に開催する第4回済生会健康フェアで、新装・緩和ケアガーデンのお披露目を計画しています。  
(済生記者 松岡亜希)

切ないイベントができる庭に改造しようというクラウドファンディングに挑戦しました。この間、緩和ケア病棟の患者さん家族がわざわざ当院まで足を運んで届けてくれた応援の言葉が、

〈兵庫〉特養ふじの里

入浴後のサービスが復活

デイサービスセンターでの入浴後のドライヤーとお茶提供が、5月18日から3年ぶりに再開されました。約15人のボランティア「リラの会」に協力してもらい、月曜から土曜日の10〜12時、交代で活動しています。コロナ禍でお休みが長かったにもかかわらず、ボランティアさんが活動を再開していた

たいことです。外部の人に見てもらおうことで地域に開かれた事業所を目指していきます。  
(済生記者 山下芳樹)



目標達成!

ご支援ありがとうございました





**4年ぶりに  
ふれあい看護体験**

医療職を目指す県内の高校生14人を迎え、5月19日「ふれあい看護体験」を開催しました。実に4年ぶりです。

阿部富貴子看護部長が済生会の理念や看護の日について話し

山形済生病院

感じます。今後は当院の「渡航前外来」で渡航者向けの他のワクチン同様に接種を行なっていく予定です。(医事課 西園桃子)



〔北海道〕みどりの里  
**ライトオンの展示販売が  
盛況**

全国展開している衣料品販売店Right-on（ライトオン）の展示販売が6月5日から5日間、みどりの里2階会議室で行なわれました。

普段お店で買い物をする機会が少ない利用者さんのため、療育支援委員会が中心となり、同社の協力を得て実施。店舗を飛び出して販売するのは、ライトオンにとっても初の試みだとか。各日とても盛況で、利用者さんは病棟スタッフと楽しくTシャツやパンツなどを選び、購入していました。

今回は秋冬物の展示販売も行なわれる予定。利用者さんは今から楽しみにしています。

(済生記者 上野孝嗣)

奈良病院  
**「陽だまりサロン」で講師**

6月10日、奈良市大安寺西地区で70歳以上の高齢者を対象に第1回「陽だまりサロン」が開催され、当院は講師として参加しました。

その後、各看護単位に分かれて看護体験。血圧測定や心音聴取、車椅子乗車など患者模擬体験も実施。患者さんと会話し、手浴・足浴などで触れ合ううちに生徒たちの緊張もほぐれていきました。体験後は「患者さんの気持ちを汲みとって行動する看護師の姿を見て、自分もなりたいと思った」と看護師への道をより固く決意した意見も聞かれ、有意義な体験となりました。

(副看護部長 狩野亜紀子)

〔大阪〕千里病院

**中谷敏院長が  
グランドスラム達成!**

5月に日本超音波医学会の名誉会員を授与された中谷敏院長は、これでアメリカ心エコー図学会名誉会員、日本心エコー図学会名誉会員と合わせ、エコー学界史上3人目となるグランドスラムを達成しました。

中谷院長は当院発刊の「済生会千里病院医学雑誌」に、次のようにコメントを載せました。「研究が完成したときの達成感、このことについては自分が一番よく知っているのだという自負心、論文に自分の名前が載った



鹿児島病院  
**南九州唯一の黄熱予防接種  
指定実施機関に**

当院は南九州では唯一、九州でも福岡県と長崎県の大学病院以外では初の、黄熱予防接種指定実施機関です。

令和2年3月から3年間、久保園高明院長をはじめ外来看護師・事務職員が、黄熱予防接種の予約から接種完了までの業務を検疫所の巡回診療として検疫



所職員の指導を受けながら対応。この実績をもとに厚生労働省に指定申請を行ない、4月12日に無事承認されました。

渡航制限が緩和され、予防接種の需要は確実に増えていると



ときの誇らしさ。これらは単なる日常業務だけでは得られません。症例報告からかまいません。臨床だけでなく是非研究も行なってほしいと思います」

グランドスラムは、先生の長年のたゆまぬ努力と研究の賜物です。おめでとうございます。

(済生記者 秋山みゆき)

福岡総合病院

**「ダヴィンチ」導入  
Webで地域への発信も**

当院では今年、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入に伴い、直腸・結腸・肺・婦人科がんにかけるロボット支援下手術を開始しました。

従来は難しかった骨盤内のよ



うな狭くて深い場所の疾患に対する安全な手術や、ズーム機能により鮮明な視野のもとで精密な手術が可能となりました。

手術による傷口が小さく出血や痛みも少ないため、患者さんの入院期間が短縮され、早期の

社会復帰ができるようになりました。本坊拓也外科主任部長の助言を受け、ダヴィンチ特設サイトも開設しました。

今後は胃がんや食道がんなど、各疾患に対して順次適応範囲を広げて取り組む予定です。

(済生記者 冨永朋美)

〔佐賀〕唐津病院  
佐伯看護課長に知事感謝状

看護事業功労者知事感謝状贈呈式が5月30日に佐賀県庁で開かれ、当院の佐伯昌子看護課長はじめ15人に實松尊徳・県健康福祉部長から感謝状が手渡されました。

佐伯課長は30年以上当院に勤



務し、昨年、認定看護管理者の資格を取得。院外では糖尿病コ―ドイネット看護師として、県内の糖尿病対策事業にも取り組んでいます。「地域で安心した生活を送ることができる社会の実現を目指していくことが私たちの使命。看護師不足の解決に向け、いきいきと働き続けられる職場環境に努めていきたい」

と出席者を代表して謝辞を述べました。  
贈呈式の様子は、地元テレビ局の夕方の番組で放送。多くの職員から声をかけてもらったとうれしそうです。

〔済生記者 相島蘭香〕

〔大阪〕千里病院

第1回緩和ケア研修会

6月3日、当院で第1回大阪府済生会千里病院緩和ケア研修会を開催しました。

ファシリテーターは院外から招いた先生や多職種で構成されるがん総合診療センターの医師薬剤師、看護師が担当。事前にeラーニングを受講した専攻医、初期臨床研修医から臨床経験20年以上の医師まで16人がグループワーク、ロールプレイで意見交換をしました。

福岡孝幸副院長兼がん総合診療センター長は「半年前に開催決定してから、準備スケジュールを作り、センター員数人で他施設の研修会を見学、外部ファシリテーターの選任、研修会の目標とプログラム作成をセンター員が一丸となって進めました。研修を通してセンターがoig



teamにまとまった感があります」と振り返りました。

〔済生記者 秋山みゆき〕

〔山形〕特養愛日荘

もう一度あの店の鰻が食べたい

「死ぬ前にもう一度、あの店の鰻が食べたい。娘の結納や、ずっと昔に特別な日に旦那と家族で食べた、あの店の鰻が」  
そんな利用者さんの希望を叶えてあげたい一心で、5月25日、



他部署の協力を得て、出前企画が実現しました。

鰻を希望した利用者さんは、重箱の蓋を開けた瞬間に満面の笑みを浮かべ、一口ひとくち味わって食べていました。  
人生の1ページを彩ることに協力でき、職員としてうれしい限りです。

〔介護職員 遠藤祐子〕

〔愛媛〕松山病院  
親善ソフト大会で優勝

第54回愛媛県済生会親善球技大会が5月21日、今治市の「朝倉緑のふるさと公園運動場多目的広場」で開かれました。

当院は初戦の対西条病院戦で初回到4番のタイムリーで先制2回には3ランが飛び出し、5-1-3で勝利しました。

第2試合の対今治病院戦は初回到林田哲也事務長のヒットから連打で5点を先取。その後も優勢に試合を進めたものの最終回到6点を奪われサヨナラ負けとなりました。

結局、3チームが1勝1敗で並び、得失点差で松山病院の優勝となりました。初めての全国大会出場に向け、選手一丸とな



つてさらに練習に励みます。

〔医事課 木村久美〕

〔愛媛〕今治病院  
4年ぶりのソフト大会で2位

松山・西条・今治の県内各施



設参加による愛媛県済生会親善球技大会が5月21日に開催されました。  
3施設とも1勝1敗だったため得失点差で優勝は松山病院、準優勝が当院、3位は西条病院となりました。  
筆者はあまりチームに貢献で

きませんでした。いつも職場で見ている姿とは違う先輩方の姿を見て感銘を受けました。

〔ナースアシスタント 木村美菜璃〕

〔埼玉〕川口総合病院  
MRI検査室への磁性体  
持ち込みの危険性を体験

新入職員研修の一環として、「MRI検査室への磁性体持ち込みの危険性」の研修を5月22〜25日に実施、90人が参加しました。  
MRIは検査をしていないときでも強力な磁場が発生。酸素ボンベや車椅子、ポケットに入れていたハサミなどを装置が吸着し、重大な事故につながる恐れがあることを、動画や過去の資料を見せながら説明。そして、実際にひもをつけたボール



ペンや爪切りの紐部分を持って一人ひとりMRIに近づき吸着する力を体験しました。  
参加者は「一歩間違えば重大事故に直結することがわかった。改めて手順の確認を徹底します」「MRI室に入室する前には、どのような状況下でも確実な金属チェックを実施します」と話していました。

（済生記者 原 衣里奈）

〔山形〕はやぶさ保育園

大成功！  
ミニうんどうかい

6月3日に、3・4・5歳児による「ミニうんどうかい」を開催しました。

堂々とした入場行進で始まった運動会。学年ごとのかけっこや、年少児の障害物競争、年中児の転がしドッジボール、年長児のパラバルーンやリレーなど、さまざまな競技が行なわれました。大きな声援が送られた年長児のリレーでは子どもたちのたくましい表情に、より一層成長を感じました。  
ファイナーレでは、ご家族にたくさん褒めてもらい、達成感に満ちあふれていた子どもたち。

最後の最後まで盛り上がりのある運動会となりました。  
1・2歳児は同日、読み聞かせやパネルシアター、園庭遊び



等のレクリエーションを行ない、保護者と楽しいひとときを過ごしました。  
（済生記者 齋藤里奈）

虹ノ松原を眺めに唐津城までウォーキング

昨年好評だったウォーキング教室を5月28日に開き、スタッフを含め21人が参加しました。  
寿楽荘ではソーシャルインクルージョン推進事業の一環とし

〔佐賀〕ケアハウス寿楽荘

て「いきいき健康サロン」を実施しています。今回は当施設から唐津城まで片道約2キロメートルのコース。城下町ならではの風情や新緑を感じられるコー

スで、理学療法士の指導の下、参加者同士で談笑しながらゆっくりと歩きました。

折り返し地点の唐津城展望広場からは、玄界灘や日本三大松原の一つである虹ノ松原が一望できました。

美しい景色と心地よい爽やかな風にみなさん「気持ちいい」と声を上げられ、「来年も参加するよ」とのうれしい声をいただきました。

（済生記者 井手良祐）

岡山済生会総合病院  
新ユニホームで  
新たな自覚

今年度、看護部のユニホームを一新しました。

新ユニホームはVネックの半袖、動きやすいスクラプタイプ。特徴的なアシメトリー（左右非対称）の襟元とポケットには鮮やかなピンク色を採用し、なでしこカラーをイメージさせます。左袖にはなでしこ紋章を付け、済生会人の誇りと責任感を表しました。男女問わず着用できるデザインとなったことで統一感も生まれました。

さらに、ユニホームの脇部分



には紺色のライン。紺色は「調和・協力」を象徴し、看護部のチームワークを力強く表現しています。

新しいユニホームを着用することで、新たな自覚と責任感を感ずるようになりました。

（済生記者 高畑貴子）

〔大阪〕泉尾病院  
草加道常さんを追悼

5月3日、大阪市内で行なわれた「草加道常さんの思い出を語る会」に参加しました。

草加氏はRINK（すべての外国人労働者とその家族の権利を守る関西ネットワーク）や、



神戸の外国人救済のNPO法人で活躍。2月21日に早世されました。  
当日は行政機関、大学、弁護士などが集い、オンラインを含め約80人が追悼しました。当院とは無料低額診療の活用で古くから交流がありました。  
少子高齢社会では、外国人社会との共存共栄は待ったなしです。今後も草加氏の意思を尊び、会場で聞いた「お互いさまの精神」を忘れず、支援をしていきたいと思えます。  
（地域ケア支援センター 医療福祉課 中山智史）



## 新築移転1年を記念し、桃山御陵を参拝

京都済生会病院

当院は6月1日に新築移転1周年を迎えました。無事に1年を迎えたことを明治天皇と昭憲皇太后にご報告するため、伏見



桃山陵と伏見桃山東陵を参拝しました。

吉田憲正院長以下職員11人が、きれいに均された白い砂利道を整列して歩いて墳墓の前へ。コロナ禍に新築移転。大きな事故もなく、一般医療とコロナを両立させながら経営改善にも取り組んできたことなどを報告しました。

当日は大雨の予報でしたが、曇天に緑が目美しく穏やかな気持ちで参拝できました。

例年、済生会創立の日である5月30日に参拝していますが、今年は数年ぶりに当院に与ったの記念日に参拝できたことで、印象深い節目の1日になりました。

(企画広報室長 松岡志穂)

山形済生病院

## なでしこ勉強会で新設センターを紹介

地域の連携医療機関に当院をより知ってもらうため「第22・23回なでしこ勉強会」を5月にオンラインで開催。昨年開設し

た人工関節センター・周産期センターをテーマに、二人の医師が講演しました。

5月17日の人工関節センター勉強会には46人が参加。当院の人工関節・股関節に関する最前線の手術手技や、携わる医療職などを説明。

5月31日の周産期センター勉強会には31人が参加。センターの様子やNICUの機器などを紹介しました。

1回30分という短い時間設定に、講師の医師からは「もう少し時間が欲しい」と注文がつくくらい、内容が濃く充実した勉強会となりました。

(地域連携室 逸見美和)



(東京) 中央病院

## JKK東京と初の健康セミナー

5月18日にJKK東京(東京都住宅供給公社)と包括連携協定を締結、6月17日に記念すべき第1回健康セミナーを開催しました。



内容は子どものお腹の悩みについての講演(40分)と、小児科医2人による個別相談(90分)。会場の港区台場のJKK東京コミュニティスペースには大人13人、子ども8人が来場しました。生まれたての赤ちゃんをお連れのご夫婦もいて、みなさん真剣に医師の講演に耳を傾けました。個別相談では温かな雰囲気をつくる医師に長時間に

わたり相談していただきました。今後もこうした健康セミナーを通じ、当院の認知度を上げていきたいです。

(事務次長代理 町田洋治)

長崎病院

## 子ども塾プロジェクトが始動

5月16日、「第1回済生会子ども塾準備室(仮称)」のキックオフ会を開催しました。

メンバーは、長崎大学副学長で長崎大学病院医療教育開発センター長の濱田久之教授、野川辰彦支部長、久保山雅弘副院長兼事務部長、奥川政彦事務次長、松崎優美地域医療連携センター長、そして河野太祐係長(総務課)と筆者の7人です。

本プロジェクトは学習支援だけでなく、子どもたちの自己肯定感や社会的なつながりの構築にも関わります。学校以外の場で新しい友だちをつくらったり、自分の才能や可能性に気づいたりすることを期待し、一人ひとり



## 「座りすぎ」解説の丸山さんについてラジオ出演

(茨城) 龍ヶ崎済生会病院

リハビリテーター  
シヨン科の丸山健太郎長補佐(作業療法士)が5月31日、ついにFMラジオ「J-WAVE TOKYO MORNING



RADIO)に出演を果たしました。

済生会本部ホームページで、「座りすぎ」について解説したことがきっかけで、雑誌「[arzan]」などから出演依頼が届くようになりました。番組では、職場でできる座りすぎを

防ぐアイデアを紹介。一押しは「ブレイク飲み(飲み物を飲む時は窓辺に移動してリフレッシュ)」だそうです。

活躍する丸山さんを見て改めて広報・情報発信の大切さを実感しました。

(済生記者 堀越琴美)



## 足腰の健康講座2023

(埼玉) 川口総合病院

済生会健康講座2023を6月3日、川口駅前市民ホールフレンドシアで開催しました。今回のテーマ「健康は足腰から」は関心が高く、市民広報に掲載後わずか1日で192席が満席になりました。

皮膚科、リハビリテーション科、ドイツ整形靴技術の専門家による五つの講演が行なわれ、説得力ある話に、みなさん熱心に聞き入っていました。講演後の質疑応答も活発で、急遽、腰痛予防体操の「ジャックナイフ・ストレッチ」の実演も入るなど熱気あふれた講座となりました。

(経営企画課 郡司勝文)

〈大阪〉吹田病院  
身投げを防いだ助産師に  
警察から感謝状

人命救助に貢献したとして岡田志帆助産師に大阪府東淀川警察署から感謝状が贈られました。5月下旬、帰宅途中の岡田助産師は、橋の欄干に足をかけ川に飛び降りようとしている女性を発見。駆け寄って「どうぞさめましたか、こちらに戻りましょう」と声をかけました。通りかかった学生たちの協力も得て、安全な場所へ誘導。通報を受けた警察官が保護し、女



性に怪我はありませんでした。「抵抗され飛び降りたらどうしよう」と一瞬ためらいましたが、気づいたら声をかけていた。自然に身体が動いていたように思います」と岡田さん。勇気ある行動を「周囲の人も手伝ってくれ、一人ではなかったのが心強かった」と振り返りました。

〈山口〉豊浦病院  
園児たちによる苗植え

当院併設のひびき保育園の園児4人が5月29日、病院駐車場の横の「とよさい農園」で苗植えをしました。

この日のために、放射線科・栄養管理課・PFMセンター・財務経理課・医事課・経営企画室など総勢10人がコミュニケーションを取りながら、2日間に渡り荒れた畑を耕しました。

当日は雨予報でしたが、どうにか持ちこたえ、園児たちは一生懸命スイカやキャベツなどの苗を植え、「大きくなあれ!」と願いを込めてじょうろで水やりをしました。

園児による苗植えは今年で4年目。野菜が無事に育ち、収穫



の時期の園児たちの笑顔を見るのが楽しみです。

〈経営企画室長 日高滋規〉

〈広島〉老健はまな荘  
施設長が全職員にヒアリング

隅井浩治施設長が病院長時代の経験を生かし、3月から2月かけて全職員にヒアリングを行ないました。初めての経験に緊張し、中には「何を聞かれるのか」「何か準備しておくものは」など恐々とする職員も。施設長によれば、「はまな荘



はケアの質が高い」「介護技術が学べてやりがいがある」「職場環境がとてよよい」といったポジティブな言葉がありました。反面、「食事の評判があまりよくない」「レクリエーションを復活させて魅力あるデイケアにしたい」「知らない人が多いので広報活動が必要だ」などの意見も多かったとのこと。

抽出した課題点を改善するため、施設長と管理職が施設内ラウンドを実施し、優先順位をつけて対応する予定です。

〈済生記者 佐藤 聡〉

地元高校生が病院花壇に  
「なでしこの花」

〈岡山〉吉備病院

6月15日、地元の高松農業高校3年生10人が、自分たちが育てた「なでしこの花」を病院に持って来て、花壇に植えてくれました。花壇は国道180号沿い、JR吉備線(ももたろう線)写真の白いガードレールのすぐ向こう側)沿いで、車や電車からは自然と目に入ってくる場所にあります。

高松農業高校とは開院当初の17年前から交流があり、玄関にある季節の花の鉢植えも生徒さんが植えたもの。機関誌「済生」の「復活のナデシコ畑」(北海道済生会)の記事を見て感動し、吉備病院からも地域の人々に元氣と癒やしを発信したいと、今回はこの思いを高校生に託しました。

〈済生記者 難波美紀〉

〈兵庫〉特養ふじの里  
手作りのフレンチトースト

毎週水曜日は、当施設の小山温史、戸田愛2人の管理栄養士が中心となって催す喫茶がにぎわう日。4月26日は特別に手作りのフレンチトーストを振る舞



いました。

入居者さんと一緒にホールへ降りた瞬間、「いい香り!」とすぐに普段と雰囲気が違うことに気づかれたようです。フレンチトーストとコーヒーが運ばれてくると目を輝かせ、みなさん笑顔で召し上がっていました。中には「初めて食べたよ」という人も。普段と違う喫茶のおもてなしにみなさんとても喜ばれ

〈北海道〉小樽病院  
緩和ケアテーマに  
終活セミナー

た様子でした。  
〈西館ユニットリーダー 円口貴美子〉

6月2日、当院講堂で市民公開講座「済生会!終活セミナー」。「人生のしまいかた」緩和ケアとは」を開きました。新型コロナが2類から5類相当に移行後の初開催でした。

講座は2部構成。第1部では緩和ケア医の菊地末紗子医師が第4のがん治療といわれる緩和ケアについて報告。第2部では緩和ケア認定看護師の藤原大地看護師が、多職種で患者さんをサポートする緩和ケアチームについて報告しました。

〈済生記者 松尾寛志〉



大盛況！「よいとさ保健室」

〈愛媛〉西条病院



「第2回よいとさ保健室」を5月27日にSAIJOB ASEで開催、椅子や在宅酸素使用中の方など、3歳から77歳までさまざまな人に立ち寄っていただきました。

よいとさ保健室は、当院・西条中央病院・村上記念病院・株式会社大屋の連携によるSDGs活動です。今回は二つのイベントを実施。「ミニ健康測定・健康相談会」では、血圧測定・血管年齢測定・握力測定・血中酸素濃度測定を行ないました。

「シャボン玉石けんづくり」はオーブン早々に整理券がなくなる人気ぶり。型抜きから自分の石けんを手にとり子どもたちは満足げな笑顔をたくさん見せてくれました。

（検診センター係長 横井小百合）

香川県済生会病院 患者説明用動画を自主制作



業務のIT化を掲げるリハビリテーション科でこのほど、3種類の患者説明用動画を制作しました。膝の人工関節置換術を受ける人向けの「自主訓練編」と「入院中の経過編」、腱板修復術を受ける人向けの「手術と術後のリハビリ編」です。

理学療法士と作業療法士のグループに分かれ、医師の監修のもとスタッフが制作した動画は、クオリティの高いものに仕上がりました。

動画はYouTubeで公開し、

病院のホームページにもリンクを掲載。アクセスしやすくするため、患者さんに渡す自主訓練用紙にQRコードを載せる、ポスターを外来や病棟に掲示するなどの工夫をしています。

（済生記者 西山汐里）

〈長野〉佐久市特養 シルバーランドみつい 3年ぶりのいきいきサロン



当施設の職員3人が6月9日、地元の新子田区ふれあいいきいきサロンに参加しました。新型コロナウイルスで中断していた。

したが、3年ぶりの再開で、待ちわびた地域の高齢者のみなさんが集いました。プログラムは健康チェックや体操、栄養士の話、郷土料理「おにかけうどん」のふるまいなど。職員は体操やゲームを担当し、みなさんと一緒に体を動かしました。

みなさんの楽しそうな姿に、3人はこのような交流の場の大切さを改めて感じたそうです。

（済生記者 大森 智）

地域の中学生が職場体験 〈山口〉豊浦病院



5月24・25日の2日間、看護師に関心を持つ地元の中学生在が2人職場体験に訪れました。



ナース服に着替え、オリエンテーション、院内ツアー、ベッドメイキング、手洗いチェック、高齢者疑似体験、さらには車椅子体験、院内デイケア参加やその他看護業務を見学しました。

生徒たちは「日頃できないような体験ができてうれしかった」「看護への興味もつと湧いた」「患者さんが笑顔になるために、裏でいろいろな努力をしていることがわかった」と話していました。

職員も次世代ナースを目指す若い力に看護の魅力を伝えるよい機会となりました。

（済生記者 西田千鶴）



「お疲れさまです」のひとこと、職員は「コーヒーの香りにとっても癒やされる」「元気をもらえた」としみじみ。ひとときの癒やしと活力をいただく時間となりました。

（済生記者 西澤真由美）

挽き立てコーヒーの無料提供に感謝

滋賀県病院

（株）セレマに6月9日に「頑張る医療従事者へ感謝の気持ちをお届けしたい」と挽き立てのコーヒーを無料でサービスしてもらいました。

当院に設置された「セレマルシエ」会場は、ヒマワリやドライフラワーなどおしゃれにデコレーションされ、カフェカウンターからは挽き立てのコーヒ

て各フロアで「お料理レク第二弾」を実施し、延べ30〜40人の入居者さんがお好み焼き作りに挑戦しました。

さすが関西人、職員の手伝いも必要なく、2玉分のキャベツが十数分でみじん切り。卵も程よい力加減で、つぶれることなく割り入れられました。

ジュージューの音とともにフロア中にいい匂いが広まり、「たのしみやなあ〜」「一枚ください」と視線はホットプレートにくぎ付けです。

焼きたての昼食に「あったかくておいしいわ」「フワフワしている」「ソースの味がいいな」とみなさん満足そうに味わっていました。

（済生記者 林 嘉夏）

〈奈良〉老健シルバーケア お好み焼きで「お料理レク」



〔長野〕佐久市特養  
シルバーランドみつい

美化活動と植栽で地域貢献

日頃お世話になっている地域の美化活動と施設内の植栽を、5月27日に同時に行ないました。職員25人が朝7時に集合。4グループに分かれてまず施設周辺



のごみ拾い。清掃中、地域の人が声をかけてくださり、よい交流の機会になりました。施設に戻ってから、入口の花壇などにみんなで花を植えました。これからの時期、面会に来られたご家族にも楽しんでいただけたらと思います。

（済生記者 大森 智）

長崎病院

4年ぶりの  
大規模防火・避難訓練

長崎中央消防署の立会いのもと、自衛消防隊28人を中心に「防火・避難訓練」を5月29日に実施しました。

平日昼間、診療棟4階器具庫で火災が発生したと想定。初期消火に失敗し、守衛室への状況報告と避難誘導と同時に守衛室から院内放送と119番通報をしました。

院内放送を受け、管理棟1階ロビーに災害対策本部を立ち上げスタッフが参集。避難誘導班から続々と本部へ避難確認の報告があり、15時過ぎにすべての患者さんとスタッフの避難確認報告が完了しました。

4年ぶりの大規模な避難訓練



に参加者は「担架を使用しながら階段を降りることは大変」「火災発生場所を毎回変えてみるとよりよい訓練になるのでは」と話していました。

（済生記者 平川幸子）

〔山形〕特養やまのべ荘

心肺蘇生法を再確認

やまのべ荘ダイサービスでは、5月29日～6月2日に看護師の指導の下、心肺蘇生法や除細動の研修会を開催し、計57人が参加しました。毎年春の新採用職員入職時に施設全体で実施しています。



今年もAED装置のデモ機を使用し、実際に人形に取り付けて手順を丁寧に確認しました。ダイサービスでも心肺蘇生法の技術が求められる場面があり、救急車到着までの間、あわてずに心肺蘇生を行なうことが救命率向上につながります。

今後このような研修を定期的に行ないます。

（主任介護職員 薬科留美）

〔埼玉〕加須病院

ICLS講習会を初開催

日本救急医学会認定のICLS講習会「第1回済生会加須病院ICLSコース」

を6月4日、院内で開催しました。

ICLSは突然の心停止に対する最初の10分間のチーム蘇生を習得するコースで、当院での開催は初です。医師、看護師、臨床検査技師ら12人が受講し、蘇生実習用人形を用いたシミュレーションやBLS（一次救



命処置)、気管挿管を含めた气道管理、電氣的除細動を含めたモニター管理等、さまざまなシナリオで取り組みました。

コースディレクターの救急医学科・福島史人医師は「心停止直後の処置にはあらゆる医療者がチームの一員として蘇生を行なうことが求められる。今後も継続して講習会を開催したい」と話しました。

（済生記者 蓬田絵里子）

〔滋賀〕老健ケアポート栗東

BCP策定を視野に  
防災研修

5月23日、済生会本部の奥野史寛・危機管理専門員を講師に迎え、「大規模災害とBCPの必要性」をテーマに防災研修を実施しました。職員約30人が参加、災害医療や滋賀県内で想定される災害について学びました。栗東市のハザードマップを用いた災害危険箇所や被害想定区域の確認では、参加者の危機感が高まりました。

介護施設のBCP策定が来年度から義務化、当施設でもより精度の高い、実効性のあるBCPが必要となります。修



了後「災害に対する意識が高まった」「BCPの必要性がよく理解できた」との声が多く聞かれ、有意義な研修会となりました。

（事務部 青木那奈）

〔山口〕下関総合病院

新人を対象に  
メンタルヘルス研修

新採用者対象のメンタルヘルス研修を6月19日に開催し、35人が参加しました。

講師は宇部フロンティア大学



大学院人間科学研究科・心理学部・人間社会学部准教授の榎本俊哉先生です。

今年度の新採用者は学生時代にコロナ禍の影響を強く受けています。実習時間や人との交流機会が限られる中、不安を抱えながら就職しました。

研修では新たなストレスによって体調を崩すことなく、専門職として責任を持って業務を遂行するために必要なストレスの予防・解消法について、ディスカッションなどを交えて学びました。

（済生記者 下村桂子）

松並睦美荘長に  
厚生労働大臣表彰

〈滋賀〉特養淡海荘

当施設の松並睦美荘長は、今日までの看護業務に対する実績が認められ、6月7日開催の看護協会通常総会で「厚生労働大臣表彰」を受章しました。



松並荘長は昭和60年から滋賀県病院で看護師として勤務。病院副院長・看護部長を経て、今年4月から特養淡海荘の荘長に就任しました。

（済生記者 野口景市）

鳥取看護大学と  
地域連携・協働実習

今年度で3回目となる当院と鳥取看護大学との地域連携・協



（鳥取）境港総合病院

「淡海荘は昭和42年に県下初の特養として開設し、以降福祉ニーズの変遷とともに地域の中核施設として役割を果たしてきました。これからも、地域の人々に信頼されるよう質の高いサービス提供を心がけ、選ばれる施設づくりに努めてまいります」と受章の喜びと抱負を語りました。

（済生記者 野口景市）

患者さんの数だけさまざまな暮らしがあることを実感した「今までとは違った視点で医療の現場を見ることができるようにな

神奈川県病院

フェスタに健康窓口を  
「出店」

東横フラワー緑道反町フェスタに5月27日、健康相談窓口の「なでしこ保健室」を出店しました。約70人が訪れ、血管の硬さや血圧の測定、健康相談、緩和ケア病棟看護師によるハンド



った」と話していました。当院職員も学生の素直な反応や感想に触れ、よい刺激となりました。（済生記者 亀尾美子）

（済生記者 小山友輝）

盛大に「このほり会」

6月5日に園庭で「このほり会」を催し、園児90人・先生20人が参加しました。

お天気に恵まれ、まずは先生たちによる相撲大会。相撲まわしの衣装を着けた先生たちが真剣に対戦する姿に、子どもたちは「頑張れ！頑張れ！」の大声援。勝敗が決まったときには歓声が沸き起こり、子どもも大人も大盛り上がりでした。相撲のあとは、子どもたちが戦う番。3〜5歳児2クラス対抗で玉入れ競争をしました。勝ったのは「ばなな組」。でも「れ



自家製黒豆の  
収穫が楽しい

（岡山）吉備病院

もん組」も頑張りました。その後は、こいのぼり釣りやこいのぼり電車などのコーナー遊びを楽しみました。午後のおやつには、給食の先生たち力作の「こいのぼりクッキー」をいただきました。

（済生記者 海野 京）



固くなった土地を掘り起こすのは一苦労でしたが、休憩時間に森真須美総師長や職員有志も参加して種まきが終了しました。おいしくて職員に大好評の自家製黒豆。今年収穫した分は患者さんにも感謝の気持ちを込めて配布する予定です。

（済生記者 難波美紀）

医療的ケア児が在宅で  
安心して過ごせるように

（山口）下関総合病院

5月23日、急性期病院と地域の訪問看護ステーションの看護師計34人が、顔の見える関係づくりを行なうため一堂に会しました。人工呼吸器や経管栄養を必要とする医療的ケア児が在宅

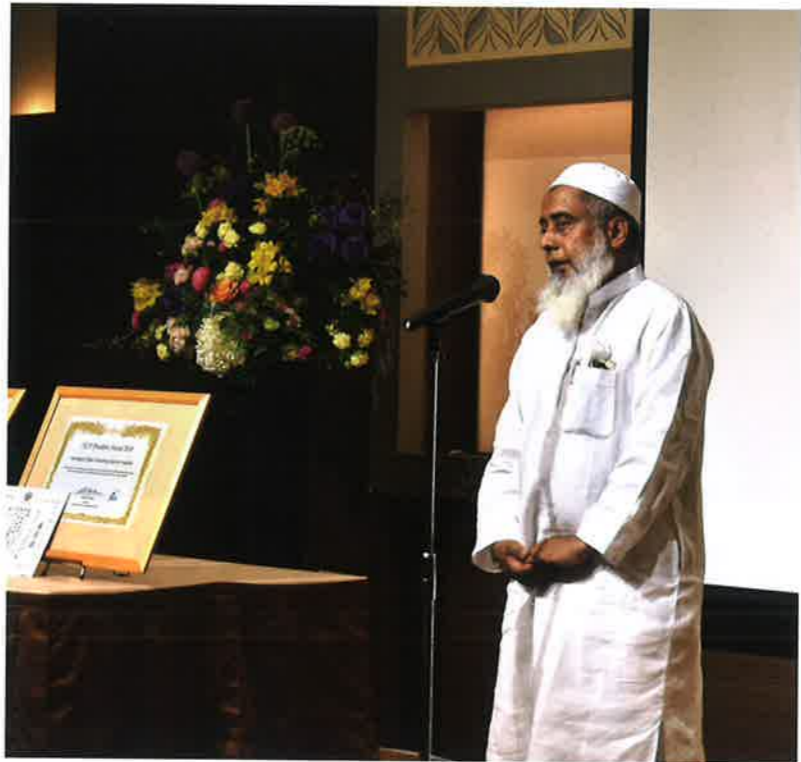


山形済生病院

ラーマン先生  
旭日双光章叙勲祝賀会

旭日双光章を受章したバンゲラディッシュ山形ダツカ総合友好病院のムハマンド・エクラスール・ラーマン先生の叙勲祝賀会が5月19日、開かれました。

先生は山形大学医学部や山形済生病院などで研修を受けた後、故国に戻り開院。現地では「ヤ



マガタ病院」として親しまれ、多くの日本人も診療し日本大使館から大きな信頼を得ています。恩師の濱崎允支部長は「山形で勉強して30年、バンゲラディッシュでなくてはならない存在となった」と祝辞。ラーマン先生は「この受章は支えてくださった多くのおみなさんのおかげです。これからも患者さんのために尽くしたい」と語りました。

(総務課 寒河江 淳)

〈東京〉中央病院

しばみつマドレーヌを販売

6月10日、港区立芝公園で行なわれた「第18回ふれ愛まつりだ、芝地区！」に、当院がソーシャルインクルージョン事業として運営する「みんなとプロジェクト」も参加。「しばみつマ



ドレーヌ」を販売しました。しばみつマドレーヌは芝地区産のはちみつを使用し、地域の就労継続支援B型事業所「みなとワークアクティ」が製造したものです。

当日は芝公園近くの戸板女子短期大学食物栄養科の学生さん7人がボランティアとして駆け付け、ポップ作成やチラシを使った呼び込みに大活躍。用意したマドレーヌ200個はお昼ごろには完売しました。

午後はスタンプリヤーに参加したり、地元の高校生による和太鼓演奏を観賞したりと、地域のおみなさんとふれあひながら楽しい1日を過ごしました。

(済生記者 鈴木香純)

〈愛媛〉松山病院

宇和海合同診療に同行

5月16日から19日まで、宇和海に浮かぶ日振島、竹ヶ島、戸島、嘉島、大島の五つの島々へ、「済生丸」で巡回診療に行ってきました。

今回は今治病院、今治第二病院、西条病院、そして今年度から幹事病院となった松山病院の全病院が参加。医師、研修医、看護師、検査技師など総勢45人の職員が保健所と合同で診療に当たりました。

診療場所は主に学校や公民館など。レントゲン・胃透視・心電図を希望の人は、港に停泊中



アジア太平洋地域より寄せられた840の詩から選ばれた111編の中には、当院緩和ケア病棟看護師・長尾知春さんの詩「きゅうりのきゅうーちゃん」も収められていました。

亡くなった母が生前よく作ってくれたキュウリの漬物。そのレシピを再現することで生まれた心の機微が綴られています。亡き母を想う姉弟の絆を通して、静かな安らぎと前に進む強さがしっかりと感じられました。

長尾さんは「この詩集が、誰かの痛みや悲しみを癒やすものになることを願っています」と話していました。

(済生記者 高畑貴子)



の済生丸船内で実施。「あんなが来るのを楽しみにしとったんだよ。もつと話したいんだよ」——島の人と保健所の人との飾らないやりとり、強い信頼の絆を感じました。

(済生記者 酒井千夏)

〈大阪〉吹田病院

ヘルニアの英知  
大阪に集結

当院ヘルニアセンターの植野望科長が会長を務めた「第21回日本ヘルニア学会学術集会」が5月26・27日、グランキューブ大阪で開催されました。

約750人が参加。海外招待講演やシンポジウム、パネルディスカッションなど多彩なプログラムが生まれ、盛会裏に終わりました。学会前日の25日には「第18回日本腹腔鏡下ヘルニア手術手技研究会」が開催されたこともあり、この3日間、大阪にヘルニア治療の英知が集結したことになります。

一般への啓発もヘルニア医療者の使命と考える植野望科長にとって、今回はまたとない機会。市民公開講座「おなかのヘルニアについて知ろう！」も開催し、

(済生記者 橋本 茜)

届いた詩集に亡き母を想う

このほど1冊の詩集が届きました。コロナの影響もあり2年の月日を経て。

それは、シンガポールが拠点の二つの団体が企画、21年出版された「死」をテーマにした詩集「To let the light in」。

〈富山〉なでしこ保育園  
自然と触れ合う春の遠足

5月23日、年少児26人が富山市の呉羽青少年自然の家まで春



の遠足に出かけました。前日に作ったてるてる坊主の祈りが届き、朝からの雨も到着するころには晴れ間が見え、絶好の遠足日和になりました。

森の散策では、でこぼこ道や竹林、小川に架かった一本橋を歩きます。途中にはたくさんのへびイチゴ。よきよきと地面から伸びたタケノコを発見して触っては「毛がはえるー」「フワワだ」と目を丸くする子どもたち。他にもカエルやアメンボ、トンボ、ダンゴムシなど小さな生き物にも出会い、そのたびに目を輝かせて追いかけていました。

（済生記者 栄 素子）

熊本福祉センター  
コロナ禍も3人の皆勤賞

障害者の就労を支援する多機能型事業所・済生会かがやきでは5月2日、就労継続支援B型事業所の利用者表彰を行いました。

表彰は今回が初めてで、22年度に休まず通所した皆勤賞の上位3人（クリーン部門2人、カフェ部門1人）に、宮川栄助管理者から表彰状とお菓子が贈ら



れました。受賞した3人は緊張した面持ちでしたが、表彰状を受け取るとうれしそうに表情が変わりました。

（支援員 吉田葵栄子）

静岡市中心障害者  
ケアセンター  
コンプライアンス研修

当施設の第1回職員研修として5月25日、コンプライアンス研修を開催し、45人が参加しま



した。講師の済生会支部監査室の鈴木雅春室長が、コンプライアンス違反のときに多い言い訳の言葉を挙げるなど具体例を交えて分かりやすく説明しました。コンプライアンス違反を防ぐには普段からの取り組みが重要で、研修の機会の充実や「ほう

（報告）れん（連絡）そう（相談）をしやすい職場づくりに努めることなど、参加した職員の共通認識になりました。

（総務管理課 大橋美穂）

〈新潟〉特養長和園  
三条マルシェで  
認知症の啓発

当園が運営を受託している三条市地域包括支援センター風南は、6月4日、グルメや手作りクラフトが楽しめる三条市恒例



のイベント「三条マルシェ」に参加。魚釣りゲームやクイズを通して同センターの周知と認知症への理解を図りました。

300人超の来場者への対応に職員は大忙しでしたが、認知症サポーターキャラバンのマスコット「ロバ隊長」のことを、小学生がお母さんに教える場面に遭遇。小学校での地道な認知症啓発活動の成果を実感し、今後に期待を膨らませた瞬間でした。

今回は江戸時代から続く伝統行事「三条風合戦」とコラボして開催。来場者は大空に舞い上がる凧の競い合いを觀賞しながらマルシェを楽しんでいました。

（済生記者 西川まゆみ）

〈大阪〉吹田病院  
第1回さいさい  
がんカンファレンス

地域の医療従事者との「がんカンファレンス」を5月25日、当院センターホールで開催しました。参加者はWebが36人、会場が35人でした。

吉川卓郎消化器外科兼がん診療支援センター科長の司会で、岡田あすか呼吸器内科兼腫瘍内

科科長が「がん免疫療法の実際」と題して講演。佛願彰太郎が「化学療法看護認定看護師も「免疫チェックポイント阻害薬の副作用マネジメント」について講演しました。

第2部では連携先の訪問看護ステーションのみなさんと事例検討会を実施。訪問看護師と訪問診療医との間で、普段はなかなか聞けない活発な意見交換が行なわれました。

（診療情報管理課長 鮫島正俊）

福井県済生会病院  
がん専門薬剤師が  
優秀奨励賞

薬剤部の五十嵐弘幸副部長が提出した症例が、昨年度のがん専門薬剤師の更新申請において「日本医療薬学会 がん専門薬剤師認定制度委員会 優秀症例賞」として表彰されました。

五十嵐副部長にとっては2回目の受賞。2回受賞は全国の専門薬剤師（2023年4



月現在786人）の中で2人目の快挙。五十嵐副部長は「日頃の患者さんへの薬学的介入が評価され非常にうれしい限りです。今後も最適で安心・安全な治療を提供するため尽力します」とコメントしました。

（済生記者 田中一弥）



愛知県済生会  
リハビリテーション病院

看護の日に  
フレイルチェック

看護の日の5月12日、「フレイル」をテーマに自身の健康を



見直すイベントを西文化センター  
1で実施、7人参加しました。  
フレイルは「加齢により心身  
が老い衰えた状態」で、要介護  
につながるリスクが高くなりま  
す。フレイルチェックに記入し、  
身体計測、血圧、酸素飽和度測  
定、骨塩定量測定、認知機能検

査のほか、転倒予防体操、医師・  
栄養士・薬剤師による健康相談  
を行いました。

アンケートには「普段の食事  
の偏りに気づいた」「みんなと  
の会話が楽しかった」という声  
とともに、全員から「フレイル  
について知ることができた」と  
の回答をいただきました。

〈看護部 古澤祥子〉

〈愛媛〉松山特養

対面での面会を再開

新型コロナウイルスの5類移行に伴い、  
5月8日から感染対策を継続し  
ながら対面での面会を再開しま



した。それまでは職員間での他  
部署との直接的な交流は中止し、  
家族との面会もZoomを使用  
したオンライン面会でした。

久しぶりに顔を合わせて会話  
でき、利用者さんも家族も大喜  
び。デイサービスに通っている  
ご主人も、対面面会を心待ちに  
していた息子さんも、入居して  
いる奥さんやお母さんも、それ  
ぞれ顔をほころばせて家族との  
話に花を咲かせていました。

〈済生記者 畑中利恵〉

〈埼玉〉川口総合病院

全国29カ所の  
臨床検査室責任者が集結

新型コロナウイルスの5類移行を受け、  
5月19日、群馬県高崎市で4年  
ぶりに開催された「第6回全国  
済生会臨床検査技師長会議」に  
出席しました。

29病院の臨床検査科長などの  
責任者43人が集まり、アンケ  
ー調査結果の共有、活動報告、  
今後の施設間研修などを話し合  
いました。

当会が2015年に発足す  
るまで、臨床検査部門各施設間  
の連携はほとんどありませんで  
した。組織横断的な連携を図り、



つながりを強固にしておくこと  
で、臨床検査部門（技師）が済  
生会の医療の質向上への貢献を  
さらに高めていくことを期待し  
ています。

〈臨床検査科 関谷晃一〉

〈福岡〉大牟田病院

クラウドファンディングで  
救急車を更新

当院では25年間稼働した救急  
車の更新とナイス・カー導入を、  
クラウドファンディングにて取  
り組みました。

済生会本部とREADYFOR



の契約締結を受けて、3月1日  
から約2カ月間、「困った人に  
手をさしのべて、新たな足とな  
る」をテーマに実施。不安を抱  
えてのスタートも、第1目標の  
1300万円をクリアし、第2  
目標の1600万円を超える支  
援をいただきました。

本プロジェクトを通じて、有  
明大牟田地区の抱える患者搬送  
課題を、地域のみならずと共有  
するよい機会となりました。生  
涯安心して住めるまちづくりへ、  
これからの救急車活用が正念場  
となります。

〈庶務用度課長 松岡 健〉

〈三重〉明和病院

緊張の採血・点滴研修

採血、注射、点滴の新人看護  
職員研修を、5月24日と31日に  
実施しました。

1日目の採血研修には、病棟  
の師長や医療安全室の看護師が  
患者役として参加。上肢へ模擬  
血管のデモ機を装着し「気分が  
悪いです」「怖いです」などと  
訴え、新人看護師は緊張した面  
持ちで採血。2日目の点滴研修  
では、前日の反省を生かし、患  
者に伝わりやすい言葉がけを工



夫して行なっていました。

新人看護師たちも積極的に質  
問し、手技を繰り返し返して実施す  
る場面が多く見られ、医療安全  
を守りながら学びを深めること  
ができました。

〈看護師 春戸美奈恵〉

〈栃木〉宇都宮病院

病院との上手な付き合い方

地域包括支援センターきよす  
みで6月1日に「家族介護教室」  
が開かれ、15人の市民が参加し  
ました。



テーマは「病院との上手な付  
き合い方」。当院地域連携課の  
稲見一美課長（MSW）が、病  
院とクリニックの役割や機能の  
違いなどを説明。かかりつけ医  
を持つことや、急変時の延命治  
療等を含め、人生の最終段階の  
過ごし方を考えておく大切さを  
伝えました。

参加者からは「医療には役割  
分担があり、いろいろな病院が  
あることがわかった」「かかり  
つけ医を持つことで、有事の際  
には病院との連携につながって  
いることがわかり安心した」な  
どたくさんの方が聞きました。

〈地域連携課 秋山綾香〉



# クラウドファンディング挑戦中



第一目標金額  
**800万円**

2次救急指定病院としての役割を担うために

## 救急処置室を改修し、受け入れ体制拡充へ

昨今の地域住民の高齢化、コロナ感染対策等により、長年利用してきた救急処置室における課題も浮き彫りになってきました。年々、救急搬送数も増加しており、一度に多くの患者様が搬送された場合には、救急処置室以外の処置室への移動や、処置室前の廊下での待機をお願いせざるを得ない場合があります。

加えて感染対策として隔離スペースも暫定的に設置しており、より強固な感染対策と受け入れ体制の拡充が必要になっております。救急搬送された患者さんに対して、適切かつ迅速に処置に取り組み、患者さんやご家族の不安感を無くすために救急処置室の改修に着手いたします。

救急医療はまさに災害時においても必要な医療です。このプロジェクトを通じて、万が一の有事の際の地域住民への貢献にも繋がるものと見据え、取り組んでまいります。ご寄付、応援のほどよろしくお願いいたします。

寄付募集期間 **開始** 6月7日(水) 10時～ **終了** 7月31日(月) 23時

いただく寄付の使い道 救急処置室の拡張、感染症対策の感染症対応室を併設する改修工事



### クラウドファンディングとは

インターネットを通して活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募る仕組み。All or Nothingというルールで、万が一目標金額に届かなかった場合、集まった支援金は支援者に返金となります。

ご寄付・詳細は  
WEBサイトをご覧ください

<https://readyfor.jp/projects/toyama2023>

済生会富山 レディーフォー



## topics

### 老人会で出張健康講座

奈良病院

フレイル予防に関する出張健康講座を5月28日「杏南老人会 憩いの家」で開催。理学療法士



(PT) 3人、ソーシャルワーカー2人が訪問しました。

奈良市社協の要請に応えたもので、当日は杏南老人会の「ぬくもり交流会」の日に当たり、9人が参加。無料低額診療の案内に続き、上田聡PTがフレイルに陥る危険性がある身体の動きや基準を説明。自宅でき

### 警察OB職員による刺股訓練

〈愛媛〉西条病院

る体操を紹介しました。参加者からは「参加してよかった」「体操をやってみようと思う」といった声がかかれました。会場が畳部屋だったせいか、座談会のような和やかな雰囲気です。「ぬくもり交流会」に溶け込むことができました。

(済生記者 川向 透)

全職員を対象に5月16日から6月8日まで20回にわたり、警察OB職員による刺股講習を実施しました。1回の講習は10人



### 認知症サポーター養成講座

〈滋賀〉特養淡海荘

まで。2班に分かれ、刺股1本の場合と応援が来て2本、3本になった場合を想定した実践的応用訓練です。伸縮式足掛け付き刺股を持った職員は「この型の刺股は初めて見た」と感動。5月17日の講習には岡田眞一院長も参加し、院長を刺股で押さえつけようとした女性職員は「力の強い男性に刺股一本で向かうのは無理だと実感しました。応援が来るまで時間稼ぎができるよう日頃から訓練しておきたい」と話していました。

(社会福祉課 高橋啓造)

担当地域内の商業施設・フレンドマートの依頼を受け、5月18日に今年度初の「認知症サポーター養成講座」を開催しました。30人が参加し、商業施設での認知症の人との接し方についてのDVD上映では、熱心にメモを取っていました。終了後のアンケートには、「同じ商品を購入する人や会計の時の様子について勉強になった」といった感想がありました。

新型コロナウイルスの規制が緩和され、講座の依頼は徐々に増加。認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指していきます。

(栗東地域包括支援センター 永原 聡)





移動の階段利用を促す「2アップ・3ダウン運動」のメッセー  
ジ。一方の階段には段数に応じ  
て、院長・副院長・看護部長ら  
の顔イラスト入りの感謝・励ま  
しの言葉を貼り、楽しく利用で  
きるよう工夫をしています。  
外来患者さんが少なくなる  
14時以降のエスカレーター  
OFF運動や、ガラス張りエ  
ントランスの遮光にも取り組ん  
でいます。

〔栃木〕宇都宮病院

男性事務職員は  
1年を通して軽装で

当院では今年度から男性事務



職員の、期間を定めない軽装化  
を決めました。  
これまでもクールビズ期間  
は、上着とネクタイは着用しな  
いでもよいこととしていました



乳幼児の急変対応と  
防護具脱着を研修

〔栃木〕うつのみやなでしこ保育園

当園は毎月、  
スタッフを対象  
に研修会を開催。  
事故防止と保育  
のスキルアップ  
に努めています。  
6月は26人が参  
加し、「乳幼児  
の急変対応」と  
「防護具脱着」  
を学びました。

小さなことですが、できるこ  
とからコツコツと職員みんな  
知恵を出し合い協力して頑張っ  
ています。

〔済生記者 中川範彦〕

20年以  
上にわた  
り、地域の  
人々への  
PR事業  
として実施  
してきたふ  
れあい看護



コロナの5類移行で  
ふれあい看護週間も平常化

新型コロナが感染症5類へ移  
行したことにより、ここ数年ポ  
スター掲示やパンフレット配  
布のみとなっていた「ふれあい  
看護週間  
(5月12  
〜18日)」を、  
3年ぶりに  
開催しまし  
た。

今回は、血圧測定・乳が  
んセルフチェック体験、手洗い  
体験、筋力・筋量測定、栄養相  
談、お薬相談、生活相談コーナ  
ーを設け、多くの患者さんや地  
域の来院者と有意義な時間を過  
ごすことができました。

〔庶務用度課長 松岡 健〕

初の各科合同消化器疾患  
検討会

〔鳥取〕境港総合病院

当院に今年度から消化器外科  
医2人が加わり、消化器疾患の  
検査・治療がさらに強化されま  
した。5月19日には初めての各  
科合同消化器疾患検討会を開催  
消化器内科・外科・放射線科・  
麻酔科の医師9人が参加しまし  
た。連携医療機関の鳥取大学医  
学部附属病院からも消化器外科  
の藤原義之教授が参加してくだ

が、多様で柔軟な働き方の推進  
や気候変動への適応等の観点か  
ら、何度も検討を重ねてきまし  
た。  
結果、上着とネクタイは通年  
で着用しなくても可としたこと  
に加え、5〜10月までの間はポ  
ロシャツ着用を可。病院から貸  
与してもらおうことになりました  
ズボンにはスラックスのみでなく  
チノパンも、靴はスニーカーも  
着用可となりました。  
男性職員からは「暑い日でも  
涼しく過ごせる」「スーツより  
動きやすく快適」などの声があ  
がっています。

〔済生記者 川原彩花〕



節電はできることから

〔石川〕金沢病院

当院では節電対策に職員提案  
を求め、楽しく取り組んでいま  
す。たとえば、エレベーター  
乗り口にあるのは、職員の短い

9症例の発表に対して白熱し  
た議論が交わされ、教授からも  
貴重なご意見をいただきました。  
今後も継続していきます。

〔済生記者 亀尾美子〕

は宇都宮病院の菅家友規感染管  
理認定看護師が「防護具脱着」  
について担当。コロナの5類移  
行に伴い、新型コロナウイルスに罹患し  
た児童をお預かりする準備も  
兼ねてあらためてガウンや手袋  
N95マスクの着脱方法を実習形  
式で確認しました。

〔保育施設事務 福田 郁〕

〈鹿児島〉 川内病院

女性活躍推進認定企業に

当院は6月1日、「薩摩川内市女性活躍推進認定企業」に認定され、田中良二市長から寄山



敏男院長に認定証が授与されました。

具体的な取り組みは、院内保育園の延長（夜間・休日）保育や病児保育の実施、看護部でのキャリア支援、育児休暇中のeラーニング学習継続支援、男性職員の育児休暇取得の積極的推進などが挙げられます。職員の75%が女性である当院

にとつて、女性が家庭と仕事の両立を図れるよう職場環境を整えることは当然のこと。女性活躍推進企業認定後も、性別により差別されることなく、自由に個々の能力を発揮できるように努めていきます。

（済生記者 竹之内美和）

〈広島〉 老健はまな荘

3年ぶりに新卒介護福祉士

3年ぶりに新卒の職員として



介護福祉士の藤江未幸さんが4月に入職しました。

一番、喜んだのは3年間ずっと新人のままだったケアワーカーの升田翼さん。「ようやく先輩になれる！」。しかし、配属先が別の階になって、部署内での「先輩」はお預けに。それでも後輩ができたせいか、升田さんは見違えるように、はつらつと仕事をこなしています。

同世代が増えると、仕事や人間関係の悩みを相談しやすい環境が生まれます。結果として、勤務環境改善や離職防止にもつながることが期待されます。来年度も新卒の介護福祉士の獲得ができるよう、若い世代から出てくるさまざまなアイデアを生かしていきます。

（済生記者 佐藤 聡）

〈山形〉 小白川ケアセンター

バスボム作りに挑戦！

サービスタ付き高齢者住宅小白川では5月23日、入居者さん16人が入浴剤の「バスボム」作りに挑戦しました。

バスボムは、重曹・クエン酸・片栗粉・お好みの香りを混ぜるだけで簡単に作れます。水をつ

けながら形を整えるのに苦戦したものの、きれいな色の入浴剤ができました。

後日、お風呂に入れてみると、シュワッと発泡しながら溶け出すバスボムに「今日のお風呂は気持ちよかったなあ」「自分で作った入浴剤は最高だね」と



みなさん満足顔。

お肌もすべすべになり、入浴後は冷たいクレープをおいしくいただきました。

（済生記者 岩城多香代）

〈愛媛〉 ケアハウス姫原

季節を感じる日光浴

5月に当施設の庭一面にキバナコスモスの花が咲く中、入居者さんと日光浴をしました。太陽の光には脳の活性化・認知症予防のセロトニンと、骨を丈夫にするビタミンDの効果が期待できます。

この日は入居者さんの参加が多い「手作り作品教室」で作ったあじさい飾りを手に、みんなで記念撮影をしました。

4月からは庭の手入れを開始。赤・青・黄・ピンク・白とさまざまな異なる色の花を植え、さまざまな刺激を得て、入居者さんとご家族、職員が穏やかな日々を過ごせたらいいと思います。

（済生記者 高坂憲啓）

〈鳥取〉 老健はまかせ

いしづち苑職員と意見交換

愛媛県の老健いしづち苑の職



員11人が6月5日、当施設を見学に訪れました。済生会福祉施設長会議の折、施設長同士で通所事業の話題になり、当施設の運営方法に興味を持ったのだそうです。

施設概要、経営状況、通所事業の取り組みなど、資料をもとに説明。施設見学の後、職種ごとに分かれてグループディスカッションを行ない、当施設から

も11人が参加しました。予定時間を3分以上延長して意見交換をする盛り上がりぶりで、当施設職員もとても勉強になったと満足していました。

（済生記者 松本 大）

〈山形〉 特養愛日荘

ストレスと上手に向き合う

当施設産業医の後藤剛氏に講師をしてもらい、6月12日、「職場ストレスとの付き合い方」を



テーマにメンタルヘルス研修を行いました。

受講者は約30人。職場内でのストレスは人間関係によるものが多いこと、柔軟な思考はストレスを溜めない一つの要因であること、深呼吸して一息つくことが簡単な解消法として効果的であることなどを学びました。ストレスには、よいストレスもあり、適度なストレス下のときが、自身の中で最高のパフォーマンスが発揮できるという話もありました。

なくすばかりでなく、ストレスと上手に向き合っていくことが大切だと実感させられる研修でした。

(副主任介護職員 金子義則)

滋賀県病院  
ホスピタルコンサート

5月18日、当院1階エントランスホールでホスピタルコンサートを開催しました。日本の歌や童謡、世界の名曲などの音楽を通じて、患者さんや地域のみなさんに癒やしとやすらぎをお届けすることが目的です。昨年11月にご協力いただいたメゾピアノ歌手の萩野美智子さんとピアノ伴奏の遠藤玲子さんを再度招きました。栗東ロータリークラブ楽団のみなさんもゲスト出演。「涙そうそう」「いのちの歌」「みかん

の花咲く丘」など、合計8曲を披露しました。華麗な歌声とピアノの音色が吹き抜ける外來フロアの全体に響き渡り、診察を終えた患者さんの多くが足を止めて聴き入っていました。

(総務課 奥山晃輔)



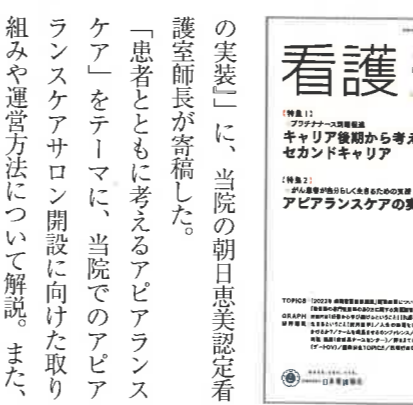
載々

済生会の職員が寄稿した記事が、掲載された雑誌等を紹介します

「医療人かつ組織人、人材育成方法を現場から発信」  
〔神奈川県〕横浜市東部病院  
人材開発支援室 西川室長  
人材開発支援室の西川泰弘室長の著書「現場発！ 病院の人材開発―医療人・組織人としての成長を支援する―」(産労総合研究所)が5月25日に発刊された。



「アピアランスケア」を解説  
静岡済生会総合病院  
朝日認定看護室師長  
2023年5月に発行された日本看護協会機関誌「看護」第75巻第7号の特集「がん患者が自分らしく生きるための支援「アピアランスケア」



の実装」に、当院の朝日恵美認定看護室師長が寄稿した。「患者とともに考えるアピアランスケア」をテーマに、当院でのアピアランスケアサロン開設に向けた取り組みや運営方法について解説。また、

アピアランスケアサロン外での支援体制について、他職種を含むチームでケアを実践していることや、院外保険薬局との連携を深め、地域で患者さんを支えることの大切さについて記載されている。

(済生記者 酒井あい)

新型コロナウイルス対策の実例と現場の声を一冊に  
〔埼玉県〕加須病院  
長原院長

新型コロナウイルスの対策や課題などをまとめた長原光院長の著書

「実例に学ぶ医療機関のパンデミック対策」が幻冬舎メディアコンサルティングから刊行され、6月19日に全国の書店で発売された。本書の出版は、長原院長が「コロナと通常診療を両立させながら一人でも多くのコロナ患者の対応に当たることができたのは、職員一人ひとりが医療者としての使命感を持って職務を全うしてくれたおかげである。その奮闘をたたえるとともに、このパンデミックで培ったノウハウを多くの人と共有したい」という思いから実現。

書籍を制作するにあたり、長原院長のほか、感染対策室の小美野勝副部長やコロナ病棟に勤務した看護師、薬剤師、臨床検査技師などさまざまな職種にヒアリング。医療の現場で働く職員の声も多く掲載されている。

(済生記者 蓬田絵里子)



大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも。ご報告ください

しあわせを運ぶコウノトリ発見！

3月27日の月曜日の朝、出勤して早々、若林久男院長が「病院の近くの電柱にコウノトリがいる！」と話すので見に行くと、本当に電柱の上に一本足で立つコウノトリがいまし



まさか国の特別天然記念物であるコウノトリを間近で見ることができるとは！ 夢にも思わなかったのに、一緒に見に行った松本久美恵看護部長と感激しました。

コウノトリはしあわせを運ぶ鳥として知られています。すべての患者さんをはじめ、当院の職員、そして済生会のみなさんのもとにしあわせが訪れますように。

(香川県済生会病院 済生記者 西山汐里)

★野生のコウノトリは一度、日本から

彼女はまさに女神

「さつき訪問に行ったら利用者さん宅に誰もおらず、しかたなく出先からご家族さんの携帯に電話したら『あつ忘れとった』って」と、当施設の藤澤千穂相談員。せっかく訪問に行つたのに、この後、怒るのだろうなと思つていたら、彼女から意外な言葉が。「(利用者さんに会えず)しょんぼりした」

な、なんとという心の広さ！

相談員の業務は、ご家族と施設の



間に挟まれて対応を行なうことも多く、大変です。ご要望とおりの対応をすることが難しいことがあって悩むこともあるはずなのに、それにもめげず、笑顔で対応できる彼女はまさに女神……。

そんな女神、今夏に出産でお休みに入ってしまった。元気な赤ちゃんを産んで一日も早く復帰してきてほしいです。彼女の一言にちょっとほっこりしたので思わず記事にしてみました。

(広島・老健はまな荘 済生記者 佐藤 聡)  
★「原稿の入稿が遅れます」「デザイナーに苦戦しています」。こう言われても私は怒りませんよ。済生編集部の皆様。(本部広報室 河内淳史)

### 「考え込まない」が長寿の秘訣

満100歳を迎えられた入居者さんのお祝い会。本当ならば誕生日当日に盛大に行なう予定でしたが、コロナ禍で叶わず、やっとお祝いが



★桃色のちゃんちゃんこがすてきで、明らかで、才気あふれる「一番お姉さん」でいてください。おめでとうございます！

(大阪・軽費老人ホームケアハウス つじ荘 生活相談員 安達麻由子)

きました。

金色のくす玉を割って飛び出してきたのは、大きな「百寿」の文字だけではなく、目には見えない100年分の思い出だったことでしょうか。

「長寿の秘訣は「何も考え込まないこと」だと教えてくださったときの優しいお顔を見て、ほっこりとしたあわせな温もりに包まれたように感じました。

どうぞこれからも変わらずに元気で、明らかで、才気あふれる「一番お姉さん」でいてください。おめでとうございます！

きゃん」と「ダークみきゃん」の作品をいただきました。広報室に飾っていて、締め切りに日々追われている私たちを和ませてくれます。

(本部広報室 河内淳史)

### 家族に会えることが何よりのプレゼント

5月16日、入院中に満100歳を迎えられたKさんの誕生日を病



室でお祝いしました。

コロナも少し落ち着き、入院中の面会も一部制限を解除。その中の限られた時間ですが、ご家族とお祝いをする事ができました。

入院されたとき「100歳までは生きたい」と治療への意欲を見せ

ていたKさん。カレンダーで毎日カウントダウンをしていました。無事100歳を迎えられたことをご家族とともに大変喜ばれ、私たちもとてもうれしい瞬間でした。

### 〇は三画で四角!

本誌でコラム「文字がたり」を連載していた書道団体・天溪会主宰の南鶴溪さんの著書「文字に聞く」がこのほど文庫化され、草思社から出版されました(税込み990円)。漢字にまつわるさまざまな面白話を紹介したエッセー集です。

例えば、漢字の世界で〇(まる)を書く場合、画数はいったい幾つでしょう? 答えは三画。口や国構えはもともと〇だったのに、亀の甲など硬い物に彫り付けるのが大変なので、みんな四角になったのだそう。その代表格が〇の真ん中に点の太

す! 「何も考え込まない」健康の秘訣、見習わせていただきます。

(メディカル・リーフ 富谷咲希)

### 40年に一度しか咲かない花

心不全看護認定看護師、特定行為(術中麻酔管理領域パッケージ修了)看護師、そして笑い療法士でもある



浅野正巳看護師が「自宅で珍しい花が咲いた!」と教えてくれました。咲いたのは「ニューサイラン」の花。観葉植物として知られています。日本での開花は珍しく、40年に一度咲くかどうか、といわれているそうです。

「ニューサイランから花茎が伸び始めた時は、何か別の植物かと思いき、切ろうかと考えていたと。浅野さん、切らなくて良かったですね……!」

(茨城・龍ヶ崎済生会病院 済生記者 堀越琴美)

★40年に一度の奇跡のタイミングに居合わせるなんて! 今年、きつと

いいことがありますよ。

(メディカル・リーフ 坂本陽子)

### 念願の簾細工名人との出会い

5月22日に取材で「愛媛」松山老健にきたつ苑を訪問。念願だったデイケア利用者の濱岡カツ子さんとの面会がなきました。



濱岡さんは簾細工の名人で、「本部職員がコロナに感染しないように」と願いを込めたアマビエを本部広報室に送ってくれた方です。(本誌2021年9月号・大雑報)

東京では22年7月、一日当たりの新規感染者数が4万人を超えた日がありました。そんな状況でも本部内でコロナが蔓延しなかったのは、濱岡カツ子さんのアマビエのおかげです!

### 広告索引

キリンビバレッジ  
――表紙見返し[表紙 2]

アクサ生命保険(株)  
富国生命保険(相)  
日本生命保険(相)  
第一生命保険(株)  
大樹生命保険(株)  
明治安田生命保険(相)  
――裏表紙[表紙 4]

### 次号予告

済生 No.1130  
[令和5年8月号]

済生会の不易流行論 (179) 炭谷 茂

NEWSな済生人  
済生会交差点

この人 橋本 淳

口福につぼん (71)  
白熊(ミルク・蜜・フルーツ  
入りかき氷) 鹿児島市

てづくりおもちや いまいみさ

陽。確かに今は四角い「日」ですね。東京・池袋の東京芸術劇場ギヤラ



リーを会場に6月13〜18日開かれた第52回天溪会書道展で、南さんは「文字は私たちにいろいろ教えてくれます。どうか漢字と仲良くなつて」と語っていました。

(本部広報室 山内 敦)

和菓子屋さんで源氏ボタル鑑賞会 東京銀座の和菓子店「源吉兆庵」で「源氏ボタル鑑賞会」が6月5日から6月11日、開催され、私も参加しました。この観賞会は無料で、今年で18回目。清流に生息するゲンジ

元気な小樽を、  
もう一度ここから。

# 病院発の 農園づくりにご寄付を



済生会北海道支部  
小樽病院は、地元のみなさまと  
歩んでまいりました



今回、小樽市塩谷・桃内地区を  
中心とする済生会の敷地内に、  
住民参加型の農園を開設します！



生産した作物は、ウイングベイ小樽内  
で加工し、社会的マイノリティの方々の  
力を借りて販売！

小樽は全国有数の観光地ですが、過疎化の一途を辿っています。私たち済生会小樽病院は地域のみなさまの人生と共に歩むなかで、過疎化に伴う孤独が、患者さまの生活に影響していると感じています。誰もが安心して生き生きと暮らし、周囲の人々とながら、この町に住み続けたいという取り組みができないか。そんな想いから、済生会北海道支部は人と人をつなぐさまざまな事業を展開してきました。

そして新たに、小樽市塩谷・桃内地区の老人保健施設「はまなす」や済生会小樽病院の敷地内などに、住民参加型の農園「済生会ファーム」

を開設することにしました。また、生産物を企業連携して売り出す過程で、発達障がいをお持ちの方など社会的マイノリティの方々の就業場所を提供します。

今回のクラウドファンディングでは農園の維持管理費用や、商業施設内での生産物加工設備の改修費などを募ります。みんなが生き生き暮らせる小樽に向けた一歩に、温かいご寄付をよろしくお願いいたします。

地域住民さま参加型の農園開設のため  
クラウドファンディングに挑戦！

ご寄付  
募集期間

開始 2023年6月12日 9:00  
締切 2023年7月31日 23:00

第一  
目標金額 1,100万円

### クラウドファンディングとは

インターネットを通して活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募る仕組み。All or Nothingというルールで、万が一目標金額に届かなかった場合、集まった寄付金は寄付者に返金となります。

ご寄付・詳細は  
WEBサイトをご覧ください

<https://readyfor.jp/projects/otaru2023>

済生会小樽病院 レディーフォー



当センターの癒やし担当です  
昨年9月に当センターに加入した



ポタルは都内ではなかなか見ることができないのですが、約600匹の乱舞にうっとりしました。  
2階のイート・インスペースを改造して特設会場に。光りながら飛んでいるゲンジボタルのほとんどがオスで、じつと動かずに弱い光をだすメスを探します。銀座でカップルになって、生まれた卵は岡山県の清流でふ化させて、人工飼育。また来年、連れてくるのだそうです。すてきな恋のSDGsだと思いました。  
(本部広報室 杉山菜央)

新メンバー。「センターで育ててほしい」と支援対象者さんからいただいたメダカです。  
対象者さんの教えのもと、当センターでの飼育がスタート。おかげで対象者さんがセンターに足を運ぶ回数も増え、ご自身もメダカたちも、なんだかうれしそう。  
今では5匹から9匹に増え、他の対象者さんや職員もすっかり癒やされています。これからもメダカの成長を見守りつつ、われわれ職員も成長できればと思います。  
(大分県地域生活定着支援センター 相談員 圓道太一)

★生き物って愛くるしくて、見てい  
るだけで癒やされますよね。メダカ  
それぞれに名前もあるんですか？  
成長記も聞けるとうれしいです。  
(本部広報室 杉山菜央)



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日財団法人済生会を創立した。  
以来今日まで112年、社会経済情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救済」という創立の精神を引き継いで保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。  
戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人財団法人済生会となっている。

総裁 秋篠宮皇嗣殿下  
会長 潮谷義子  
理事長 炭谷 茂  
本部 2 東京 支部 40 都道府県  
病院 81  
診療所 20  
介護医療院 2  
介護老人保健施設 28  
救護施設 1  
児童福祉施設 25  
老人福祉施設 120  
障害者福祉施設 9  
看護師養成施設 7  
訪問看護ステーション 64  
地域包括支援センター 31  
地域生活定着支援センター 5  
その他 10  
合計 403 (数字は令和4年度)  
さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の60島の診療活動に携わっている。  
職員数は全国で約6万4000人。

## 済生 [令和5年7月号]

THE NEWSLETTER of  
Social Welfare Organization  
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和5年7月10日発行  
通巻第1129号 (第99巻第7号)

編集兼 炭谷 茂  
発行人 社会福祉法人 済生会  
発行所 〒108-0073  
東京都港区三田 1-4-28  
三田国際ビルディング 21階  
TEL: 03-3454-3311 (代)  
FAX: 03-3454-5576  
印刷所 株式会社白橋  
東京都中央区八丁堀 4-4-1

© 社会福祉法人 済生会

# 済生会グループ保険のご案内

スケールメリットを活かした、  
個人保険に比べて  
割安な保険料で  
大きな死亡保障を!!

## グループ保険

〔災害割増特約・こども特約・  
こども災害割増特約付福祉団体定期保険〕

(本人・配偶者・こども対象)

診査がなく(告知のみ)  
手続きが簡単なうえ、  
剰余金があれば  
契約者配当金が戻ります。



## ① 終身医療保障プラン

〔手術給付特約・手術補完給付特約・  
先進医療給付特約(12)・死亡保険金不担  
保特約(入院保障保険(終身型 09)用)付  
入院保障保険(終身型 09) (60日型)〕

## ② 総合医療あんしんプラン

〔総合医療保険(団体型)〕

(本人・配偶者・こども対象)

2つの保険より、  
選択できます。



第二の人生を  
充実させるために  
今からご準備を!!

## ゆうゆうライフプラン

〔拠出型企業年金保険、  
医療給付金付個人定期保険〕

(本人のみ対象)



済生会グループ保険は令和5年8月にご案内します。  
この機会にぜひご検討ください。



※このご案内は商品の概要を説明しています。ご契約の際には、「パンフレット」「重要事項説明書(契約概要・注意喚起情報)」を必ずご覧ください。

〔グループ保険・ゆうゆうライフプラン引受保険会社〕

アクサ生命保険株式会社 [事務幹事会社]  
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 電話 03(6737)7777(代表)

日本生命保険相互会社 富国生命保険相互会社  
第一生命保険株式会社 大樹生命保険株式会社  
明治安田生命保険相互会社

〔医療保険引受保険会社〕

アクサ生命保険株式会社 (終身医療保障プラン)  
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 電話 03(6737)7777(代表)

日本生命保険相互会社 (総合医療あんしんプラン)

法人サービスセンター  
電話 0120-563-925

【受付時間 月曜日～金曜日9:00～17:00(祝日・12/31～1/3はお取扱いしておりません)】

〔グループ保険・ゆうゆうライフプラン・終身医療保障プラン お問合せ先〕

アクサ生命保険株式会社 制度推進部  
〔照会先〕法人ビジネス業務部  
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 電話 03(6737)7450

〔総合医療あんしんプラン担当営業部〕

日本生命保険相互会社 公務第一部  
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-1-1 電話 03(5533)5085

Form No.0D2313(10.0) AXA-A1-2202-0122/9F7 2023.02.01